

## 第6章 県民の「幸せ」感等



## 第6章 県民の「幸せ」感等

今回の調査では、経済的な指標等だけでは捉えきれない県民の「幸せ」感を把握するための設問を設けた。

本章では、どのようなことが県民に「幸せ」感をもたらしているのか、地域とのつながりや生活状態（くらしむき）、生活価値観などについて「幸せ」感との関連を見ていく。

### 1. 回答者の属性と「幸せ」感（回答者の属性×問 1-4）

#### (1) 地域別に見る「幸せ」感

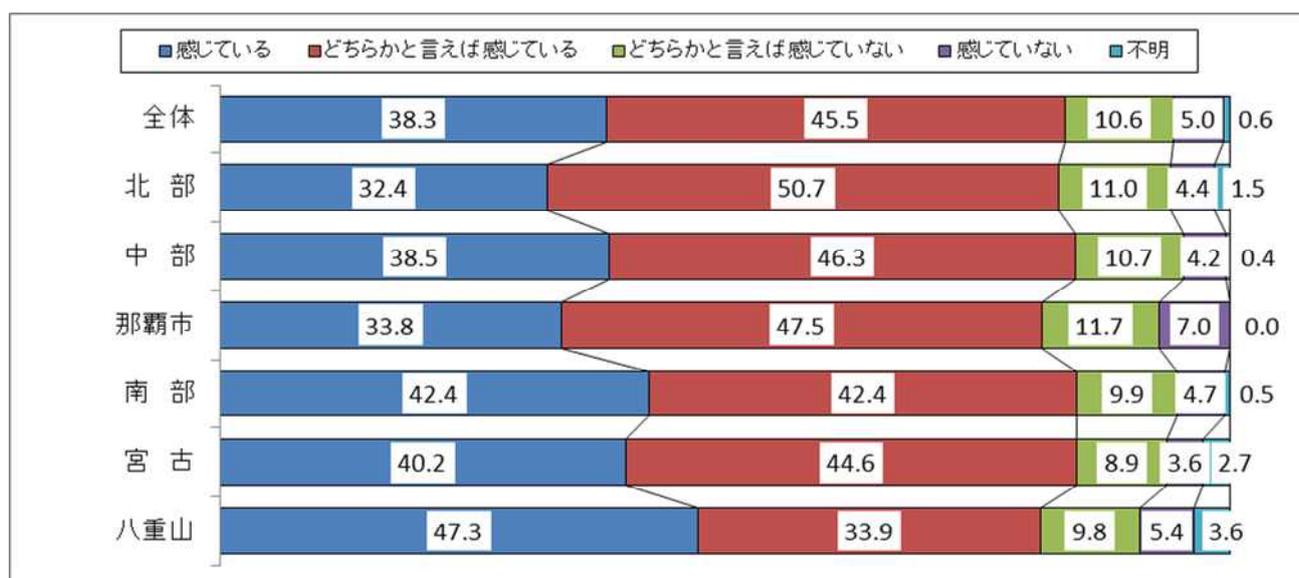
「幸せを感じている」及び「どちらかと言えば感じている」と回答した比率の合計は83.8%になり、沖縄県全体の「幸せ」感は非常に高い。

「幸せ」感を地域別に見ると、最も「幸せを感じている」比率が高い地域は八重山（47.3%）で、続く南部（42.4%）、宮古（40.2%）においても、40%以上の方が幸せを感じている。

しかし、「幸せを感じている」及び「どちらかと言えば感じている」の比率の合計で比較すると、地域ごとの差はあまり見られない。

一方、「幸せを感じていない」及び「どちらかといえば感じていない」と回答した比率の合計は、那覇市（18.7%）において最も高い。

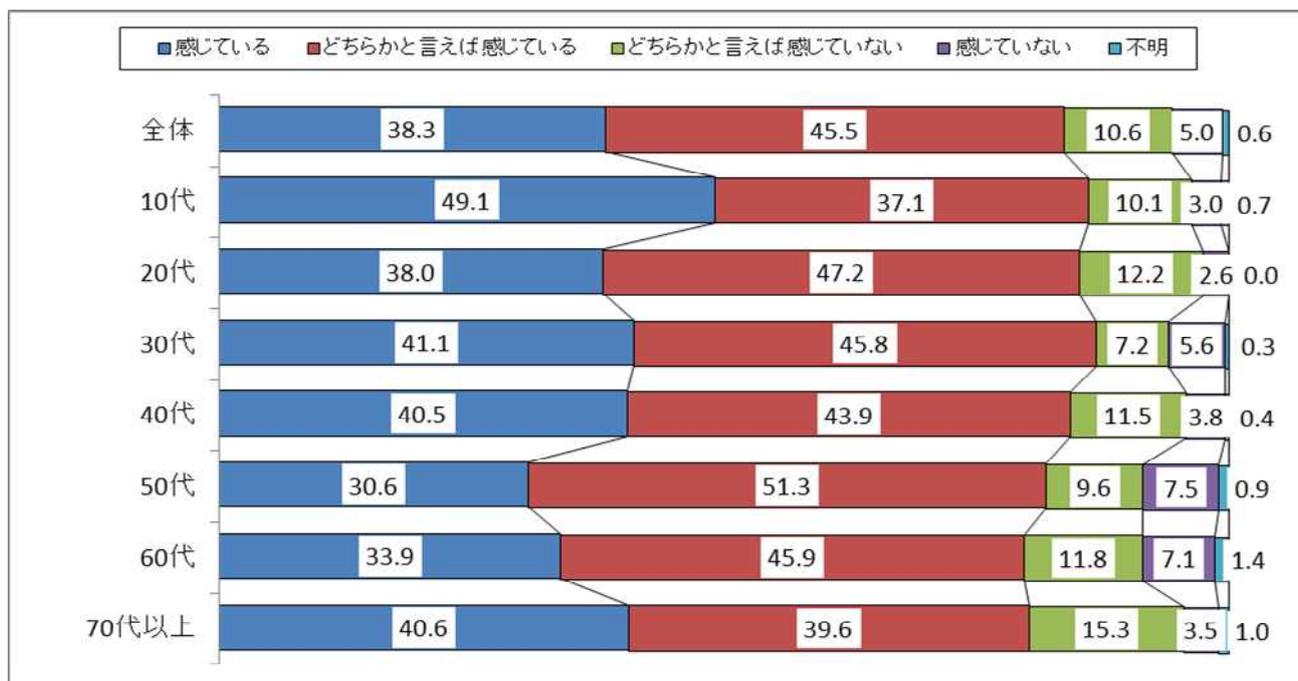
図 6-2-1 地域 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



## (2) 年代別に見る「幸せ」感

「幸せ」感を年代別に見ると、「幸せ」を感じている比率は10代（49.1%）が最も高く、次いで30代（41.1%）、70代以上（40.6%）と続く。一方、最も比率が低いのは50代（30.6%）となっている。年代と「幸せ」感の間には特別な相関は見られない。

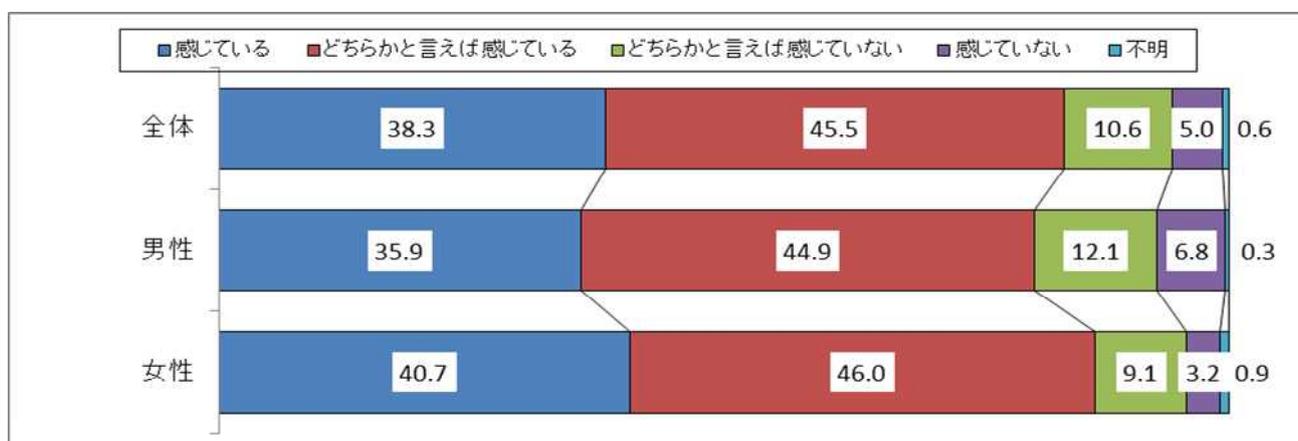
問6-2-2 年代 × 問1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



## (3) 性別に見る「幸せ」感

「幸せ」感を性別で見ると、女性の方が「幸せ」を感じている比率が高く、また「どちらかと言えば感じている」という回答まで含めると女性の方が男性より約6ポイント「幸せ」を感じる比率が高い。

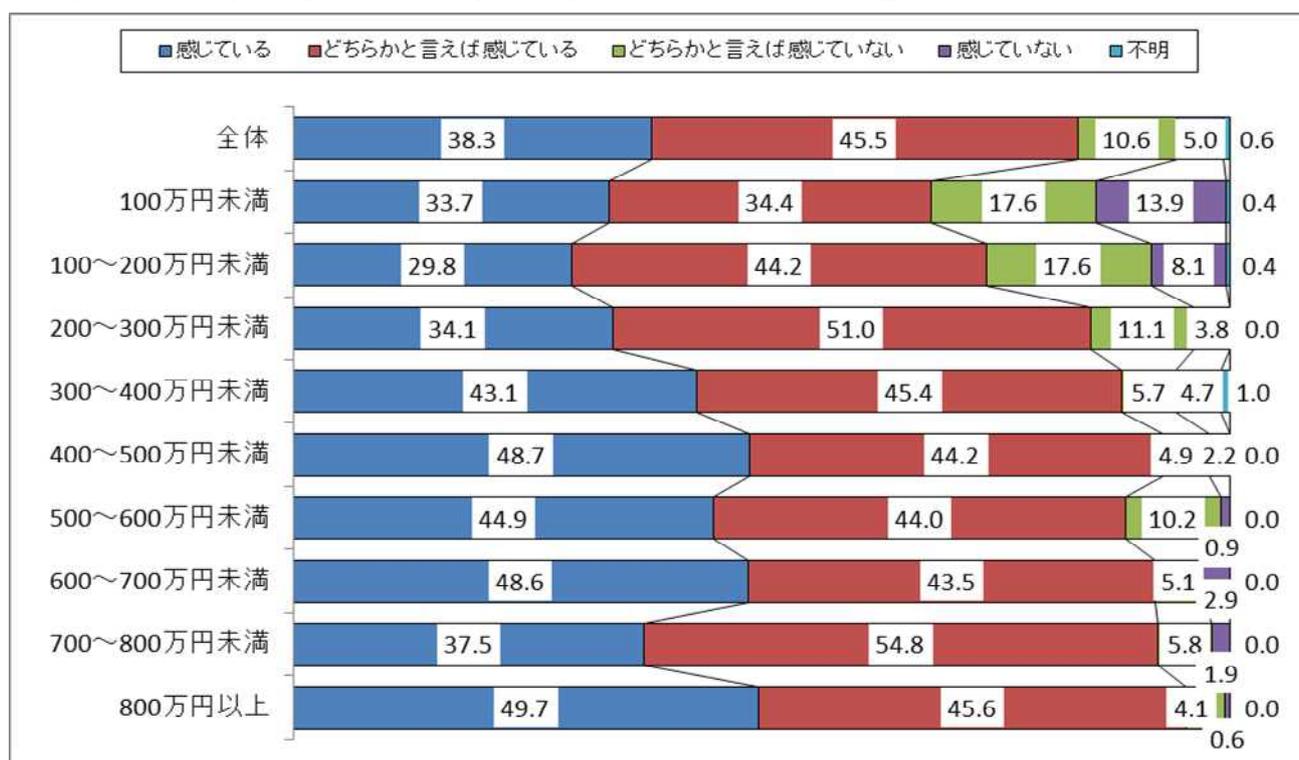
図6-2-3 男女 × 問1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



#### (4) 世帯年収別に見る「幸せ」感

世帯年収別に見ると、「幸せ」と感じている比率は、100万円以上から500万円未満の区分において、世帯収入の区分が100万円増加するごとに「幸せ」感が高くなる傾向が見られる。一方、100万円未満の区分及び500万円を超える区分においては、世帯年収が上がるにつれて「幸せ」感がより高くなるという傾向は見られない。

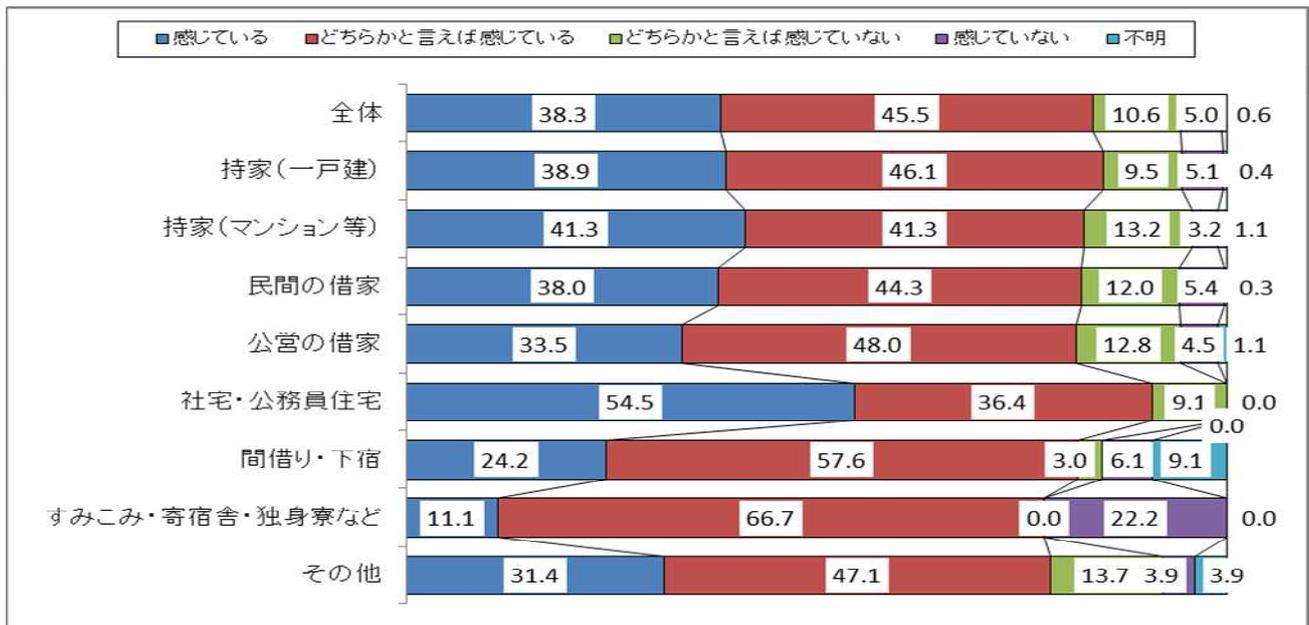
図6-2-4 世帯年収 × 問1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



#### (5) 居住形態別に見る「幸せ」感

居住形態別に見ると、「幸せ」と感じている比率は「社宅・公務員住宅」(54.5%)が最も高く、続いて「持家(マンション等)」(41.3%)、「持家(一戸建)」(38.9%)が高い。一方、最も比率が低いのは「すみこみ・寄宿舍・独身寮」(11.1%)となっており、続いて「間借り・下宿」(24.2%)、「公営の借家」(33.5%)が低い。

図 6-2-5 居住形態 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



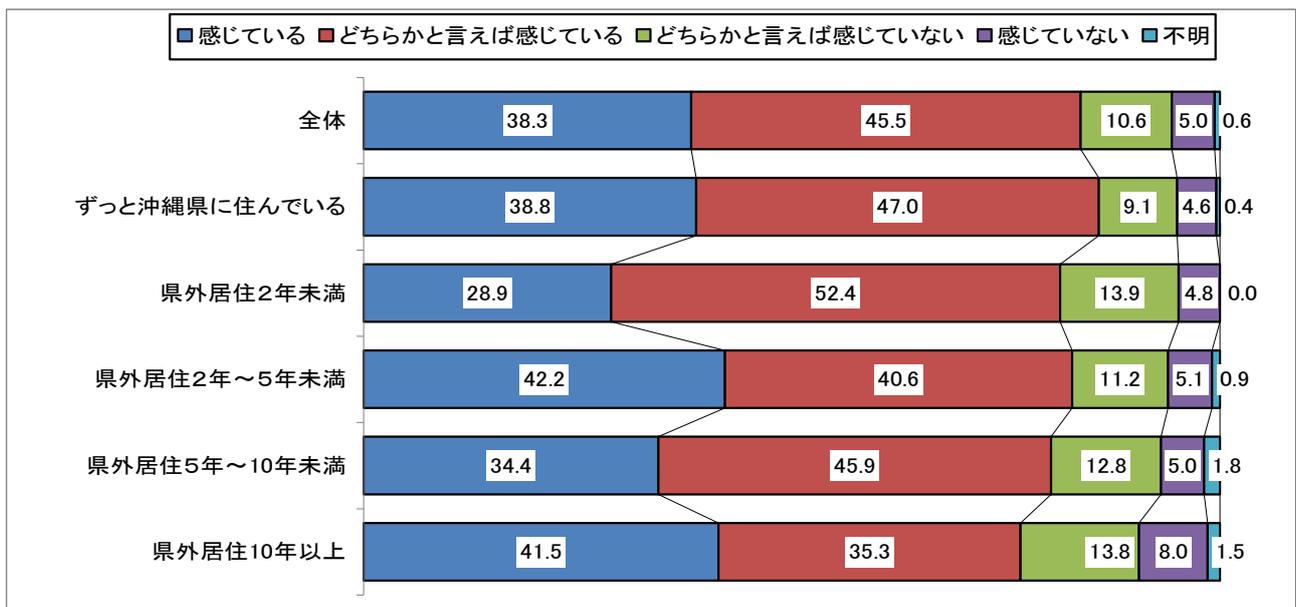
(6) 県外居住の経験と「幸せ」感

県外に居住した経験と「幸せ」感の関連を見ると、ずっと沖縄県に住んでいる人の「幸せ」感は、「どちらかと言えば感じている」を含めれば 85.8% となっている。

10 年以上県外に住んだことがある人は「幸せを感じていない」及び「どちらかと言えば感じていない」の比率の合計が最も高く、21.8% である。

「幸せ」を感じている比率が最も高いのは「県外居住 2 年以上～5 年未満」(42.2%) であり、逆に最も低いのは「県外居住 2 年未満」(28.9%) である。

図 6-2-6 県外居住経験 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか



### (7) 中流意識と「幸せ」感

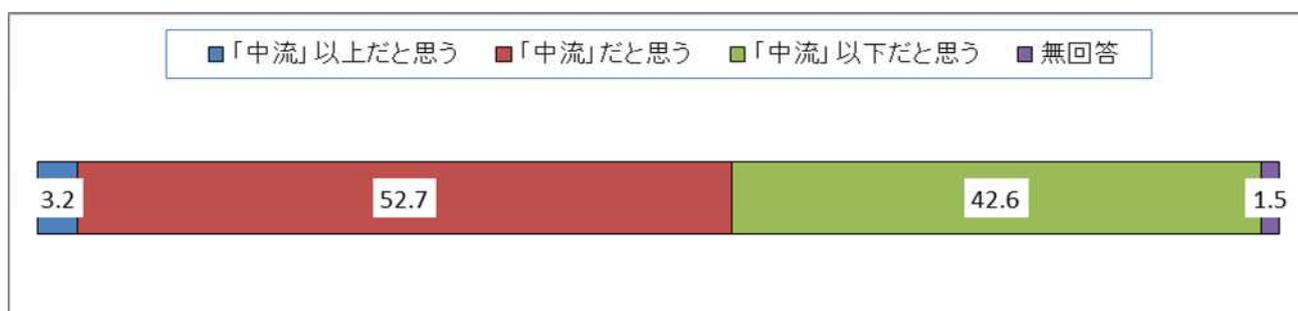
今回の調査において初めて「中流意識」に係る質問項目を設けた。

前回調査までは、生活状態がよそに比べ「普通」と答えた人（53.3%）を「中流」（今回調査 52.7%）と置き換えて解説した。

また、前回調査では「極めて良い方」（3.7%）と「良い方」（17.4%）の合計が 21.1%であったのに対し、今回調査で「中流以上」と回答したのは 3.2%となっている。

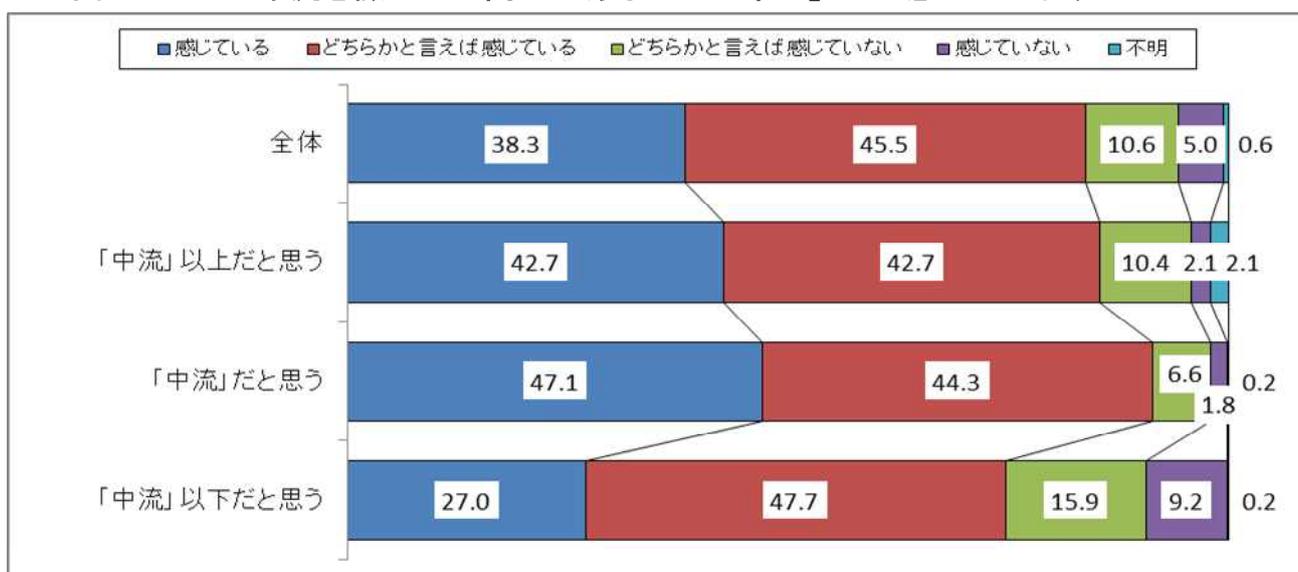
同様に、前回調査で「悪い方」（17.6%）と「極めて悪い方」（4.8%）の合計が 22.4%であったのに対し、今回調査で「中流」以下だと思うと回答したのは 42.6%となっており、両者を比較するとかなりの開きがある。このことから前回調査で用いた用語「普通」を「中流意識」に置き換えて比較することはできない。

図 6-2-7-1 中流意識



「中流」だと思う人は、「中流」以上だと思う人より「幸せ」を感じている人がより多い。「中流」以下だと思う人の「幸せ」感は 27.0%であり、「中流」だと思う人より約 20 ポイント低い。

図 6-2-7-2 中流意識 × 問 1-4 あなたは「幸せ」だと感じていますか

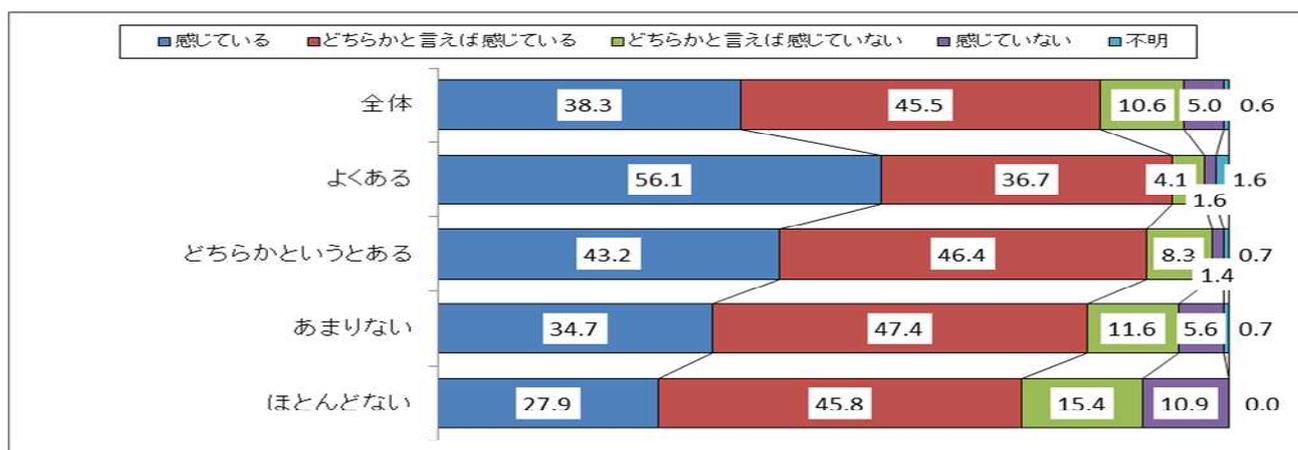


## 2. 地域のつながりと「幸せ」感（問2×問1-4）

### (1) 近隣に住んでいる方との交流の程度と「幸せ」感

近隣に住んでいる方との交流の程度と「幸せ」感との関連を見ると、交流が「よくある」と回答した人が「幸せ」を感じる比率は最も高く、56.1%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、交流が「ほとんどない」と回答した人で27.9%となっている。交流の機会がある人ほど「幸せ」を感じる比率が高くなっている。

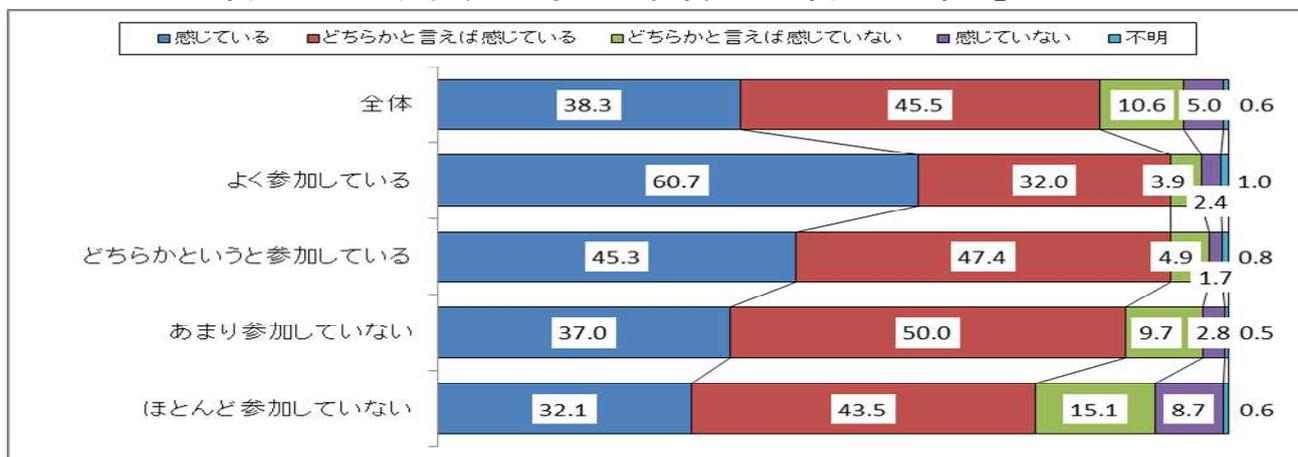
図 6-1-1 問 2-1-1 近隣に住んでいる方との交流の程度 × 問 1-4 「幸せ」感



### (2) 地域活動への参加の程度と「幸せ」感

地域活動への参加の程度と「幸せ」感との関連を見ると、地域活動へ「よく参加している」と回答した人が「幸せ」を感じる比率は最も高く、60.7%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「ほとんど参加していない」と回答した人で32.1%となっている。地域活動への参加が多い人ほど「幸せ」を感じる比率が高くなっている。

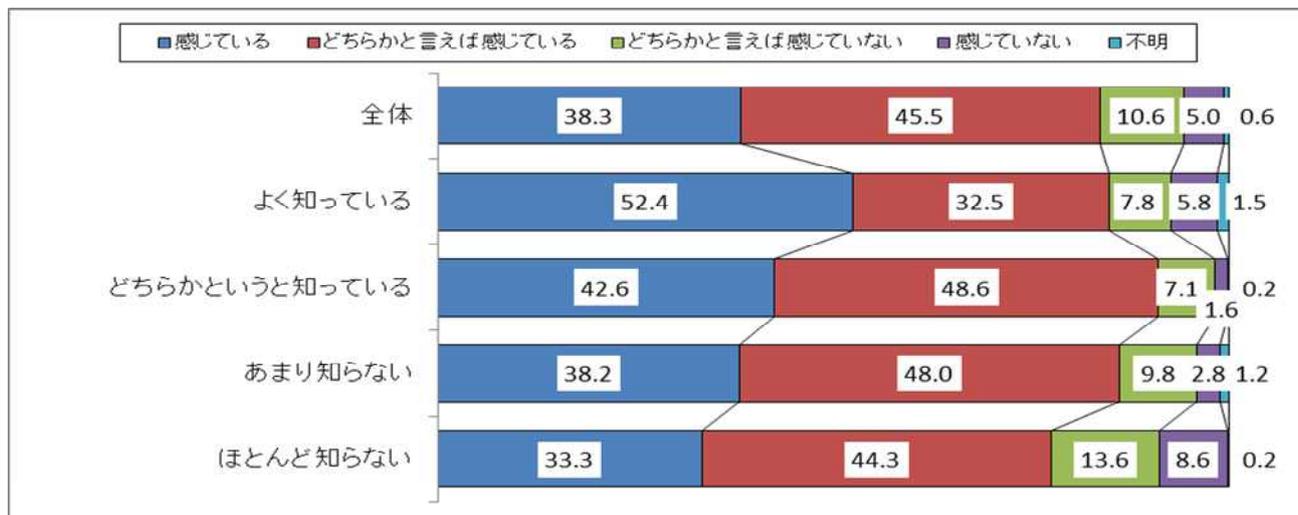
図 6-1-2 問 2-1-2 地域活動への参加の程度 × 問 1-4 「幸せ」感



### (3) 困ったときの相談先を知っている程度と「幸せ」感

自分が困っている時に相談できる機関や人をどれくらい知っているか。それらを知っている程度と「幸せ」感との関連を見ると、「よく知っている」という回答をした人ほど「幸せ」であると感じている比率が高い。

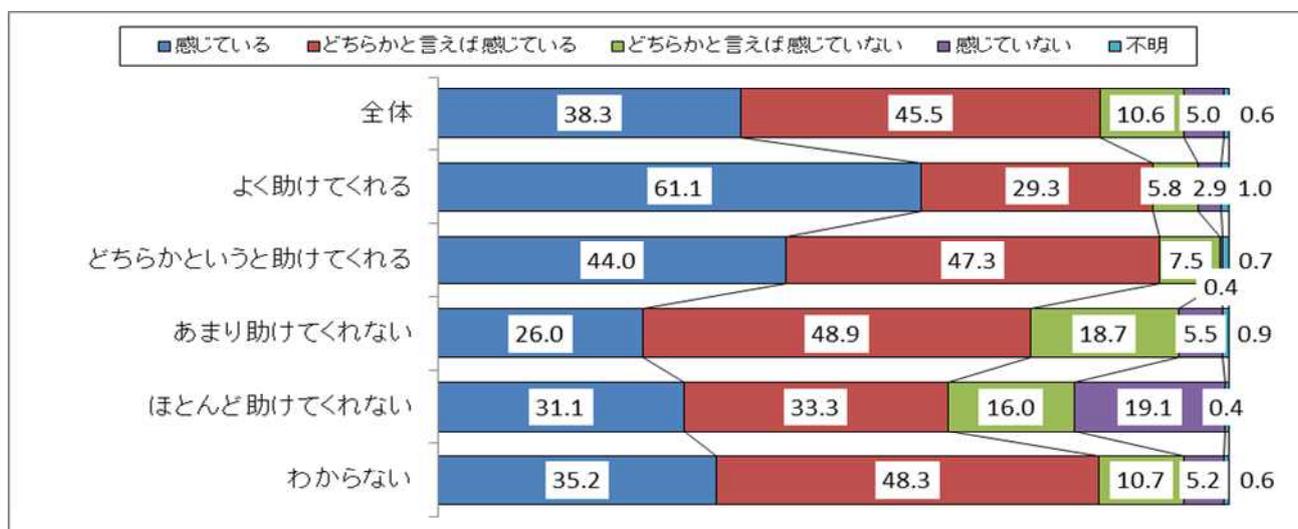
図 6-1-3 問 2-1-3 困ったときの相談先を知っているか × 問 1-4 「幸せ」感



### (4) 困った時に地域の方が助けてくれる程度と「幸せ」感

自分が困っている時に地域の方はどれくらい助けてくれるのか。その「程度」と「幸せ」感との関連を見ると、「よく助けてくれる」(61.1%)とと思っている人は、そうでない人よりも「幸せ」と感じる比率が高い。しかし、「ほとんど助けてくれない」(31.1%)とと思っている人は「あまり助けてくれない」(26.0%)とと思っている人よりも5ポイントほど「幸せ」と感じる比率が高いことを見ると、助けてくれる程度が多いほど「幸せ」感が高いとは一概に言えない。

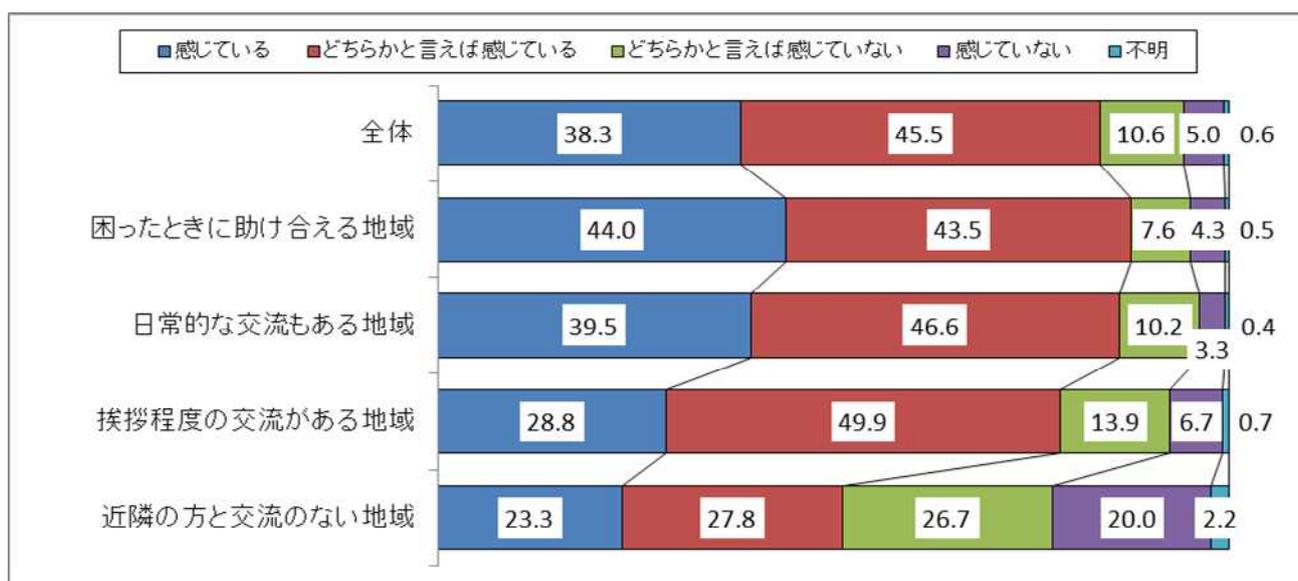
図 6-1-4 問 2-1-4 困った時に地域の方が助けてくれる程度 × 問 1-4 「幸せ」感



### (5) 地域の交流のあり方に対する希望と「幸せ」感

地域の方たちとどのように交流することを希望しているかということと「幸せ」感との関連を見ると、近隣の方々と「困ったときに助け合えるような地域」を希望している人が「幸せ」を感じている比率が最も高く、44.0%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは「近隣の方と交流のない地域」と回答した人で、23.3%となっている。困ったときに助け合う地域を望む人ほど、「幸せ」を感じる比率が高くなっている。

図 6-1-5 問 2-2 地域の交流のあり方に対する希望 × 問 1-4 「幸せ」感

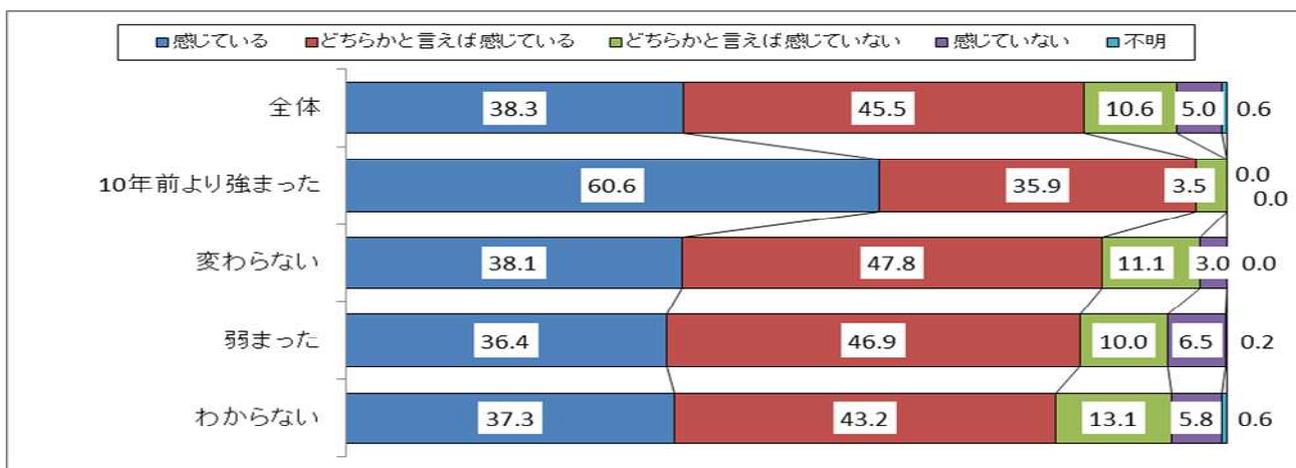


### 3. 県民の自己像と「幸せ」感（問 1-1～18×問 1-4）

#### (1) 人と人のつながりと「幸せ」感

人と人のつながりが10年前と比べて強まったと思うかどうかと「幸せ」感との関連を見みると、「10年前より強まった」と思う人が「幸せ」を感じている比率は60.6%と最も高い。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「弱まった」と回答した人で36.4%となっている。しかし「変わらない」と「弱まった」に差がほとんどなく、人と人のつながりが強まったと思う人ほど「幸せ」を感じるということは言えない。

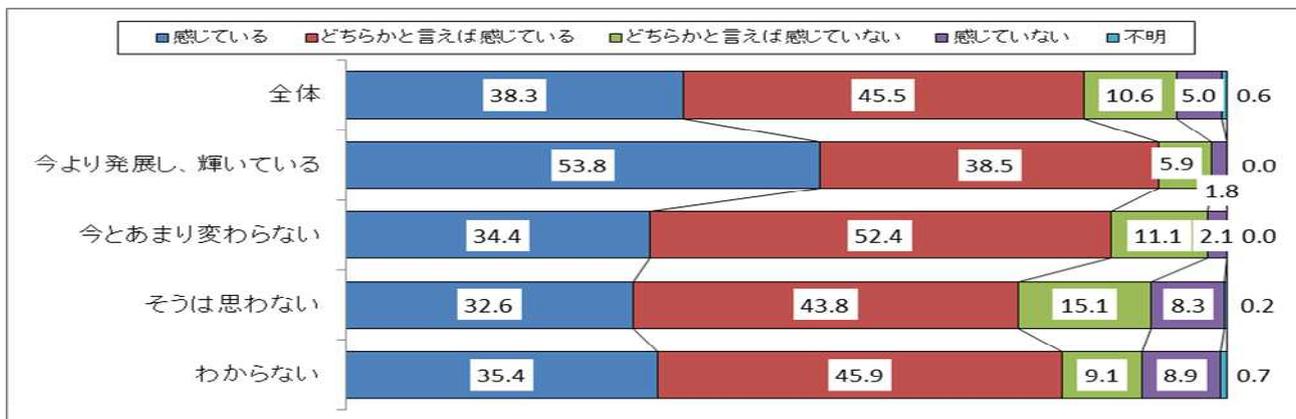
図 6-3-1 問 1-1 人と人のつながり × 問 1-4 「幸せ」感



#### (2) 20年先の沖縄に対する見通しと「幸せ」感

20年先の沖縄は現在よりも発展し、輝いていると思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「今より発展し、輝いている」と思う人が「幸せ」を感じている比率は53.8%と最も高い。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「そうは思わない」と回答した人で32.6%となっている。しかし「今とあまり変わらない」と「そうは思わない」に差がほとんどない。

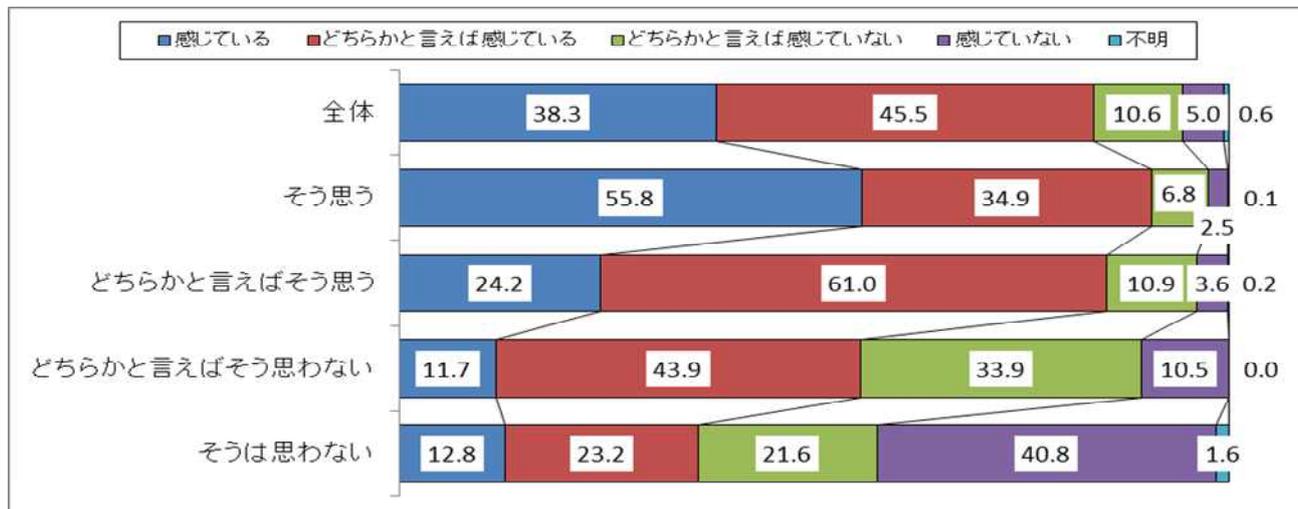
図 6-3-2 問 1-2 20年先の沖縄に対する見通し × 問 1-4 「幸せ」感



### (3) 努力すれば人生は変わるという考えと「幸せ」感

努力すれば人生は変わると思う人と、そうは思わないと考える人がいる。それらの考えと「幸せ」感との関連を見ると、「努力すれば人生は変わる」と考える人は、そう考えない人よりも40ポイント以上「幸せ」に感じている比率が高い。

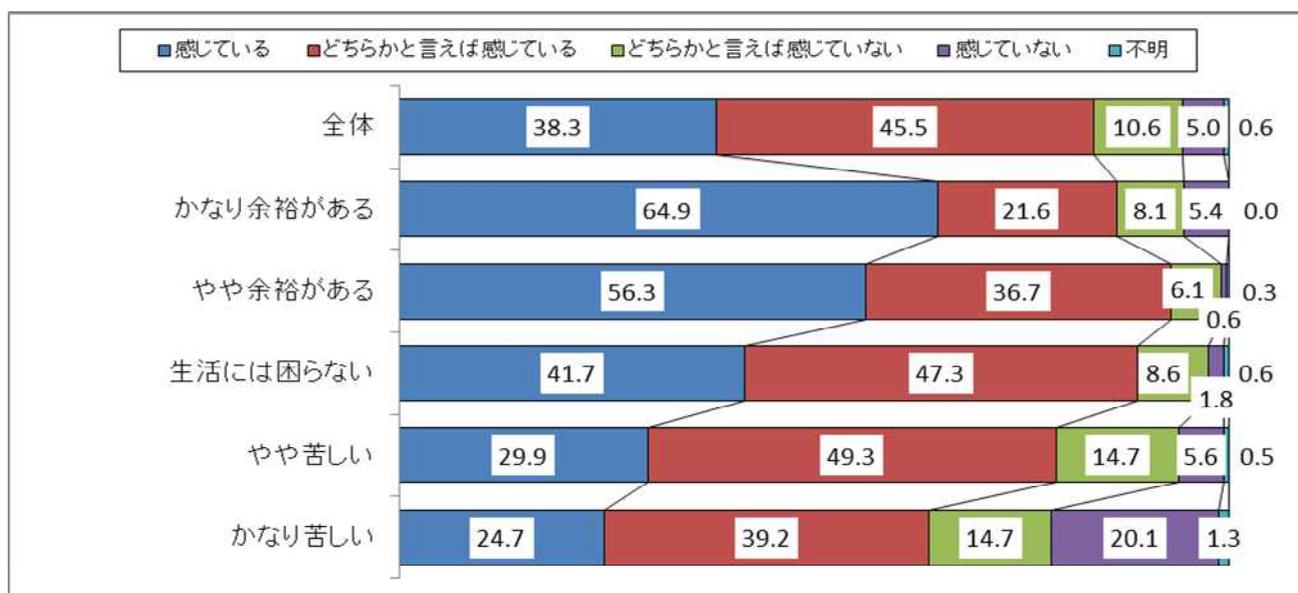
図 6-3-3 問 1-3 努力すれば人生は変わる × 問 1-4 「幸せ」感



### (4) 世帯の経済状況と「幸せ」感

世帯の経済状況と「幸せ」感との関連を見ると、世帯の経済状況に「かなり余裕がある」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、64.9%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、世帯の経済状況が「かなり苦しい」と回答した人で24.7%となっている。世帯の経済状況と「幸せ」には一定の相関が見られる。

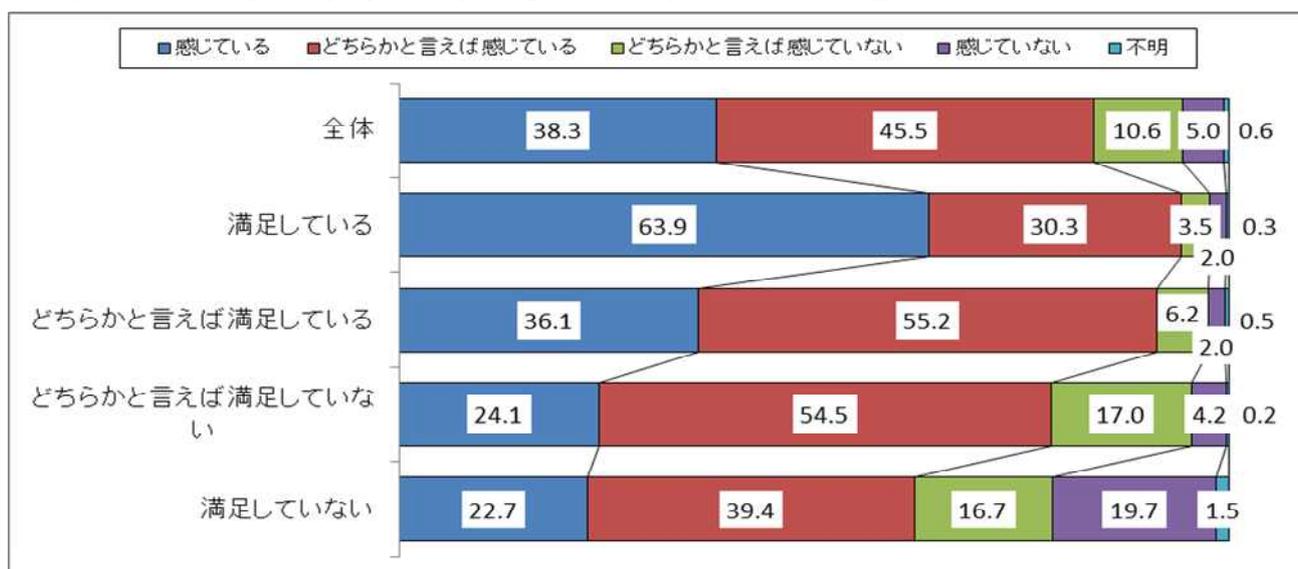
図 6-3-4 問 1-6 世帯の経済状況 × 問 1-4 「幸せ」感



### (5) 仕事への満足感と「幸せ」感

現在の仕事への満足感と「幸せ」感との関連を見ると、仕事に「満足している」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、63.9%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、仕事に「満足していない」と回答した人で22.7%となっている。仕事への満足感と「幸せ」感には一定の相関が見られる。

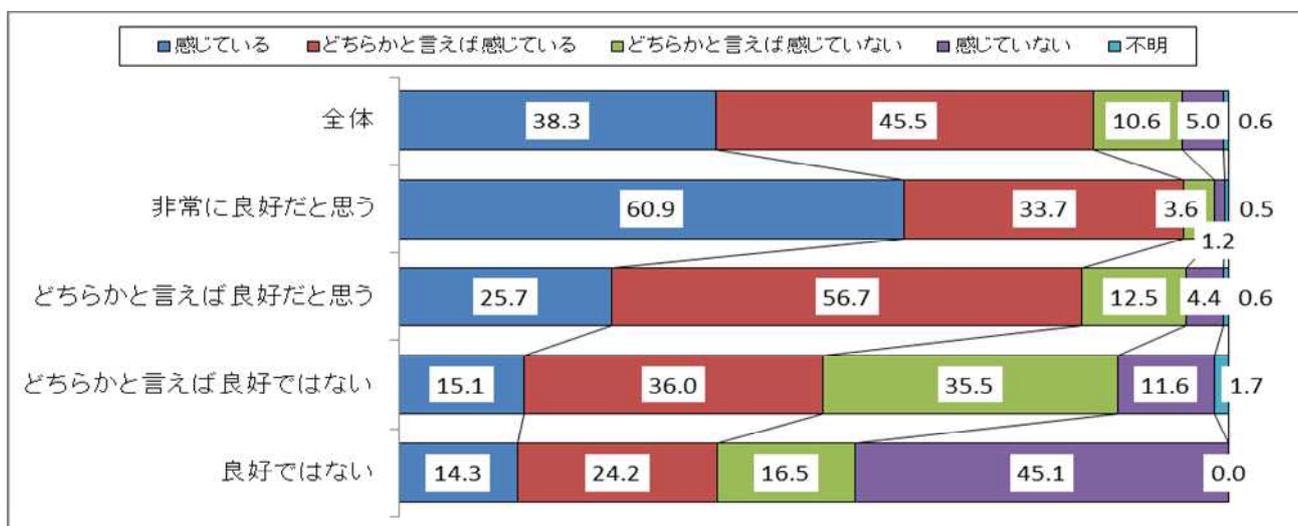
図 6-3-5 問 1-7 仕事への満足感 × 問 1-4 「幸せ」感



### (6) 家族との関係と「幸せ」感

家族との関係が良好かどうかと「幸せ」感との関連を見ると、家族との関係が「非常に良好だと思う」人は、「どちらかと言えば良好だと思う」人に比べて35ポイント以上「幸せ」を感じている人が多い。家族との関係は「幸せ」感と強く関連していると考えられる。

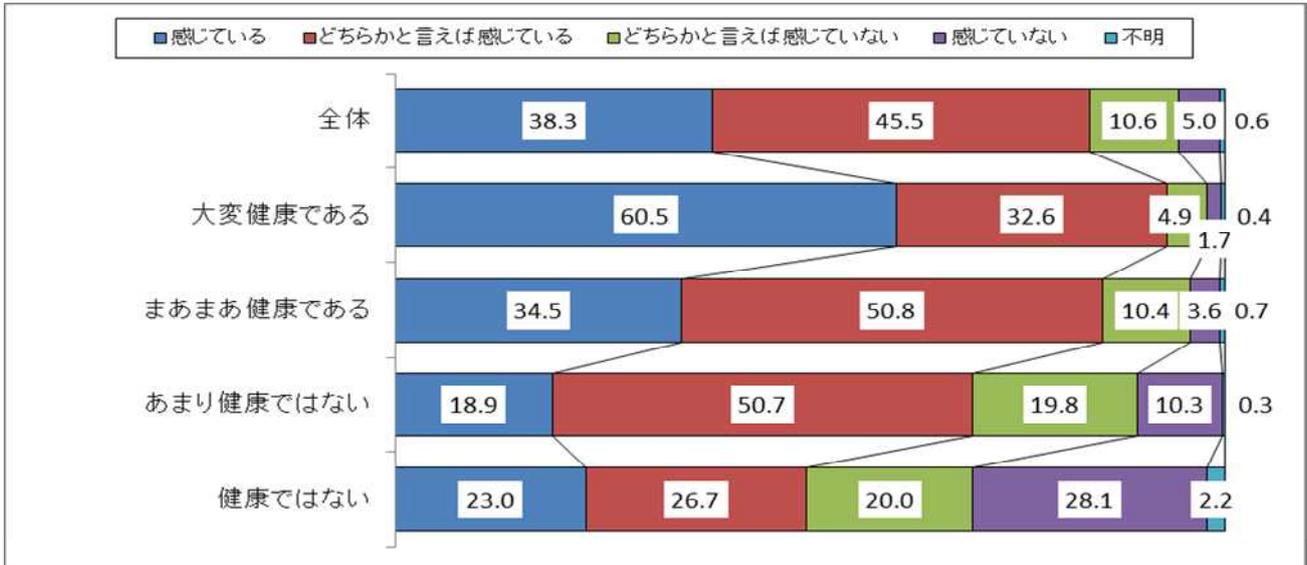
図 6-3-6 問 1-8 家族との関係 × 問 1-4 「幸せ」感



(7) 健康状態と「幸せ」感

健康であるかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「大変健康である」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く 60.5%となっている。そして「まあまあ健康である」(34.5%)、「健康ではない」(23.0%)、「あまり健康ではない」(18.9%)と続く。

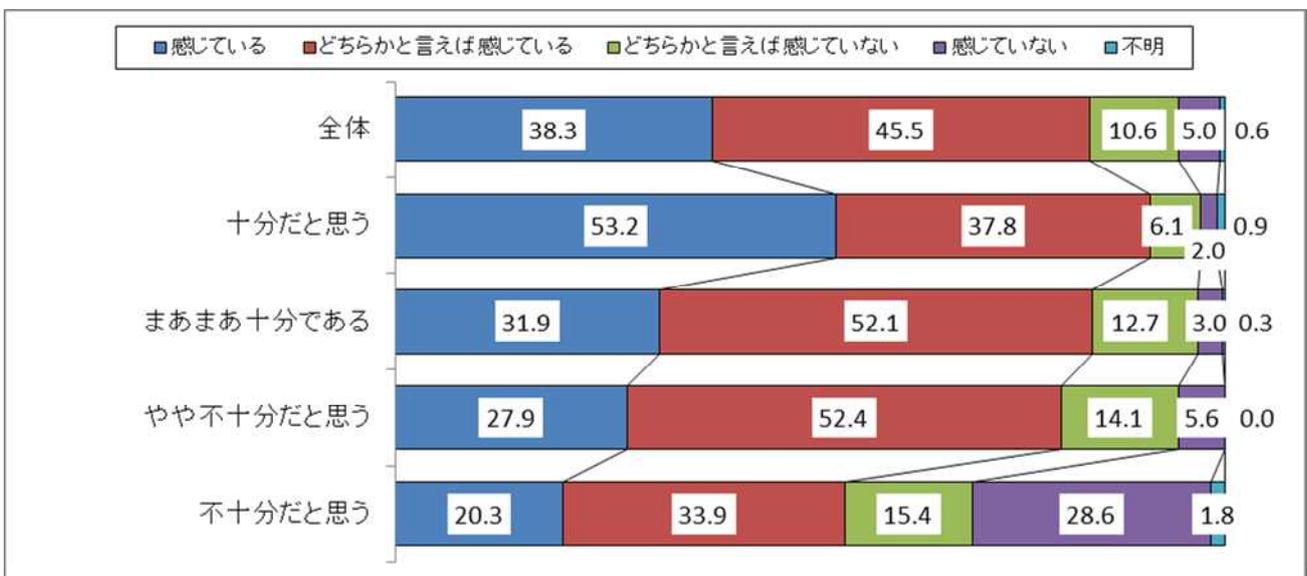
図 6-3-7 問 1-9 健康状態 × 問 1-4 「幸せ」感



(8) 現在の住まいと「幸せ」感

現在の住まいは生活していく上で十分と思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「十分だと思う」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、53.2%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、「不十分だと思う」と回答した人で20.3%となっている。現在の住まいと「幸せ」感には一定の相関が認められる。

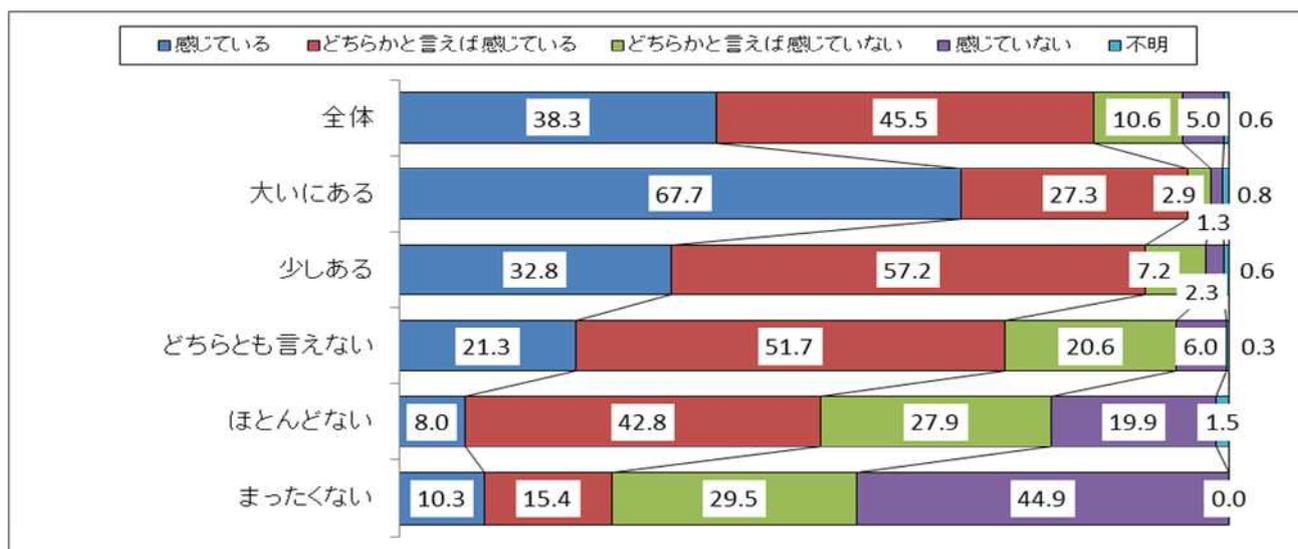
図 6-3-8 問 1-10 現在の住まい × 問 1-4 「幸せ」感



### (9) 「生きがい」と「幸せ」感

生きがいにしていることがあるかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「大いにある」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、67.7%となっている。そして「少しある」(32.8%)、「どちらとも言えない」(21.3%)、「まったくない」(10.3%)、「ほとんどない」(8.0%)と続く。

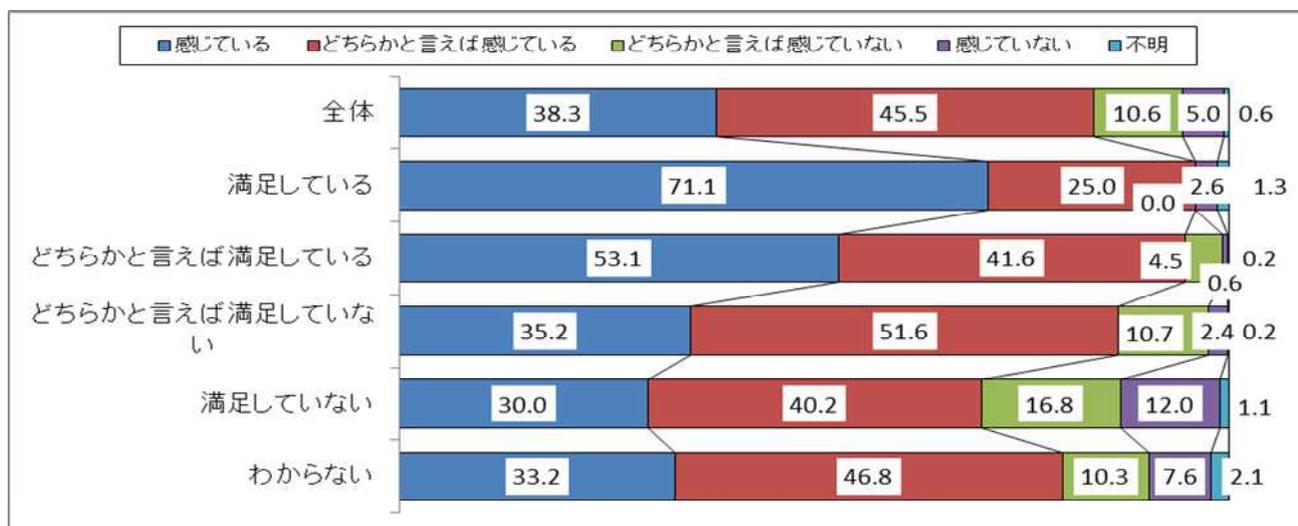
図 6-3-9 問 1-11 「生きがい」 × 問 1-4 「幸せ」感



### (10) 社会に対する満足感と「幸せ」感

現在の社会に全体として満足しているかと「幸せ」感との関連を見ると、「満足している」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、71.1%となっている。そして「どちらかと言えば満足している」(53.1%)、「どちらかと言えば満足していない」(35.2%)、「わからない」(33.2%)、「満足していない」(30.0%)と続く。

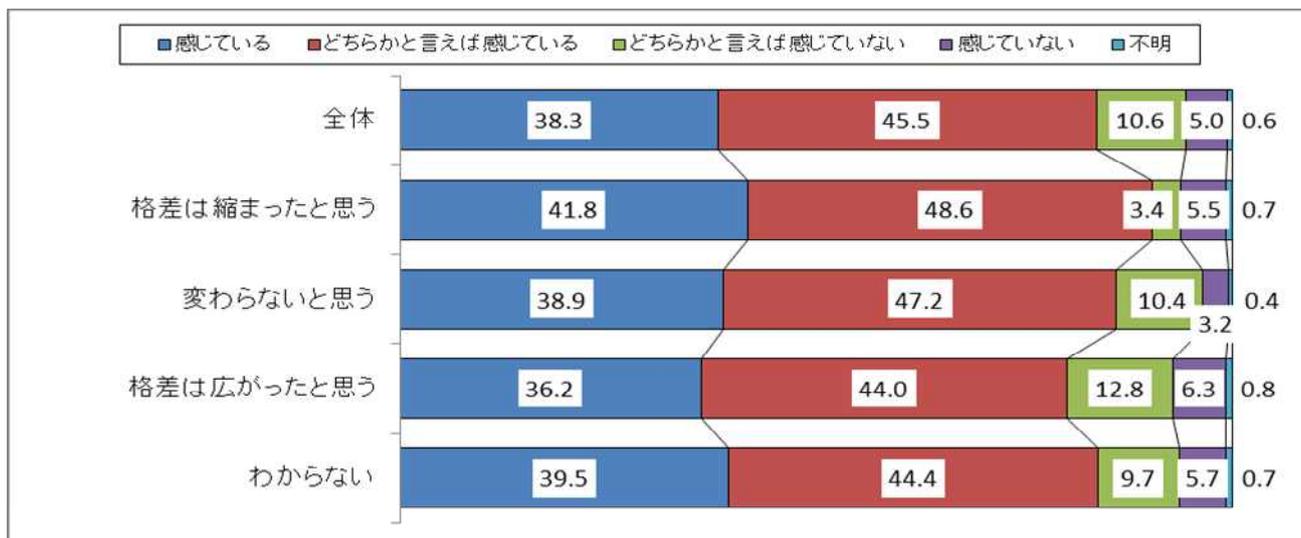
図 6-4-1 問 1-12 社会に対する満足感 × 問 1-4 「幸せ」感



### (11) 県民間の経済格差と「幸せ」感

10年前の沖縄と比べて、県民間の経済格差は縮まったと思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、経済格差が縮まったと思うかどうかに関わらず、「幸せ」を感じる人の比率に大きな差はみられないことから、両者に特別な相関はないと思われる。

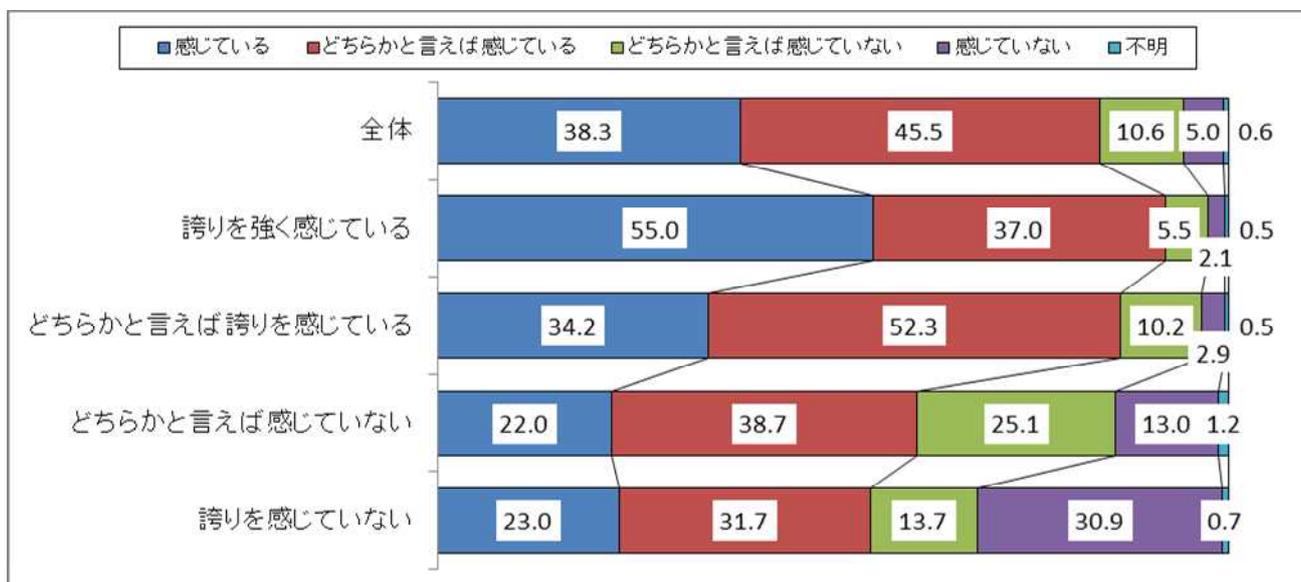
図 6-4-2 問 1-13 県民間の経済格差 × 問 1-4 「幸せ」感



### (12) 沖縄県に対する誇りと「幸せ」感

沖縄県に誇りを感じているかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、沖縄県に「誇りを強く感じている」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、55.0%となっている。そして「どちらかと言えば誇りを感じている」(34.2%)、「誇りを感じていない」(23.0%)、「どちらかと言えば感じていない」(22.0%)と続く。

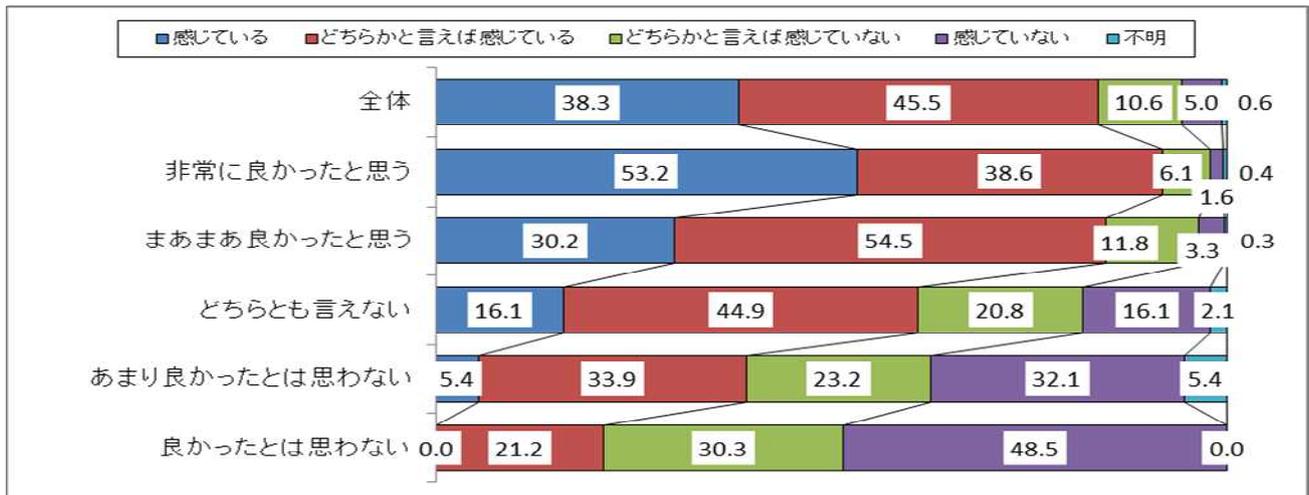
図 6-4-3 問 1-14 沖縄県に対する誇り × 問 1-4 「幸せ」感



(13) 「沖縄県に生まれてよかった」との思いと「幸せ」感

沖縄県に生まれて生活している。または、生まれは沖縄県でなくても沖縄県で生活している。そのことが良かったと思えるかどうか、その思いと「幸せ」感との関連を見ると、「非常に良かったと思う」人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、53.2%となっている。そして「まあまあ良かったと思う」(30.2%)、「どちらとも言えない」(16.1%)、「あまり良かったとは思わない」(5.4%)、「良かったとは思わない」(0.0%)と続く。

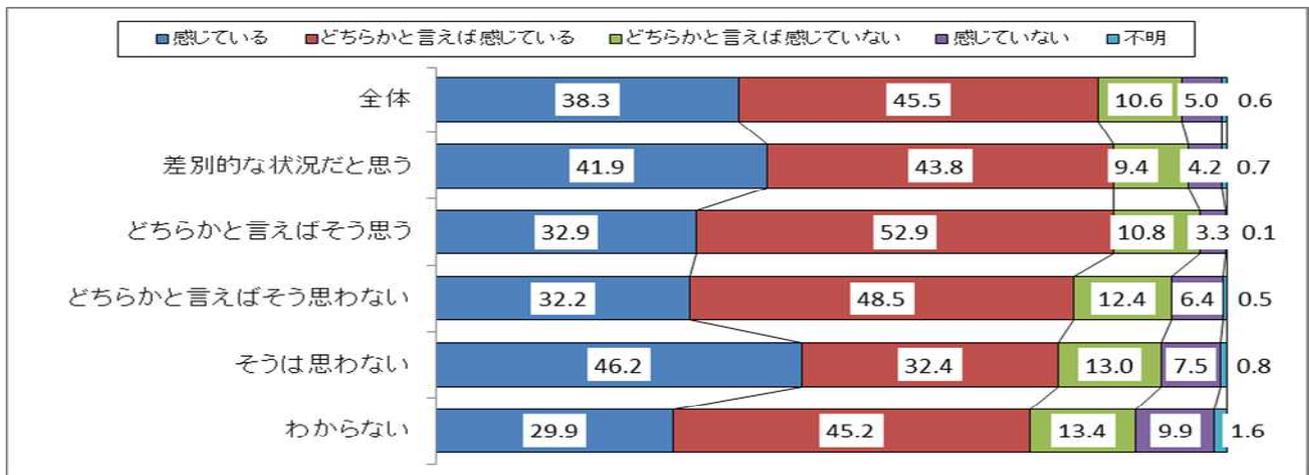
図 6-4-4 問 1-15 「沖縄県に生まれてよかった」との思い × 問 1-4 「幸せ」感



(14) 米軍専用施設の集中に対する意識と「幸せ」感

沖縄県に全国の米軍専用施設の約74%が存在している。それを差別的な状況だと思うかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「そうは思わない」人が最も高い比率で「幸せ」を感じており、「差別的な状況だと思う」人がそれに次ぐ比率で「幸せ」を感じている。差別的な状況であると思うかどうかと「幸せ」感との間には、特別な相関はないと考えられる。

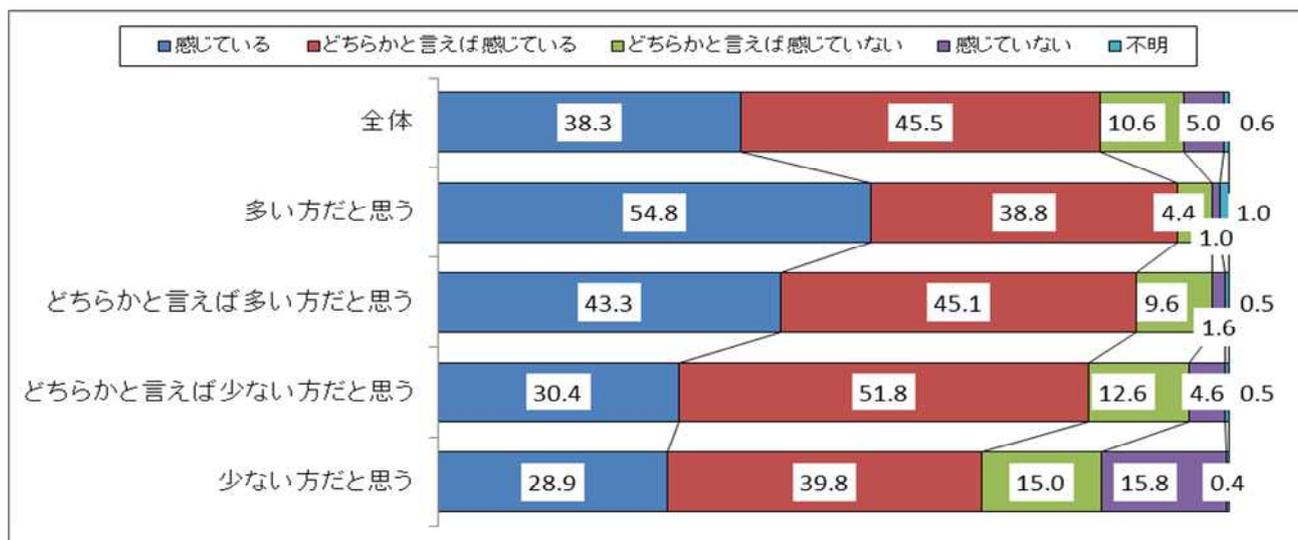
図 6-4-5 問 1-16 米軍専用施設の集中に対する意識 × 問 1-4 「幸せ」感



### (15) 友人・知人の多さと「幸せ」感

友人や知人が多いと思っているかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「多い方だ」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、54.8%となっている。そして「どちらかと言えば多い方」(43.3%)、「どちらかと言えば少ない方」(30.4%)、「少ない方」(28.9%)と続く。

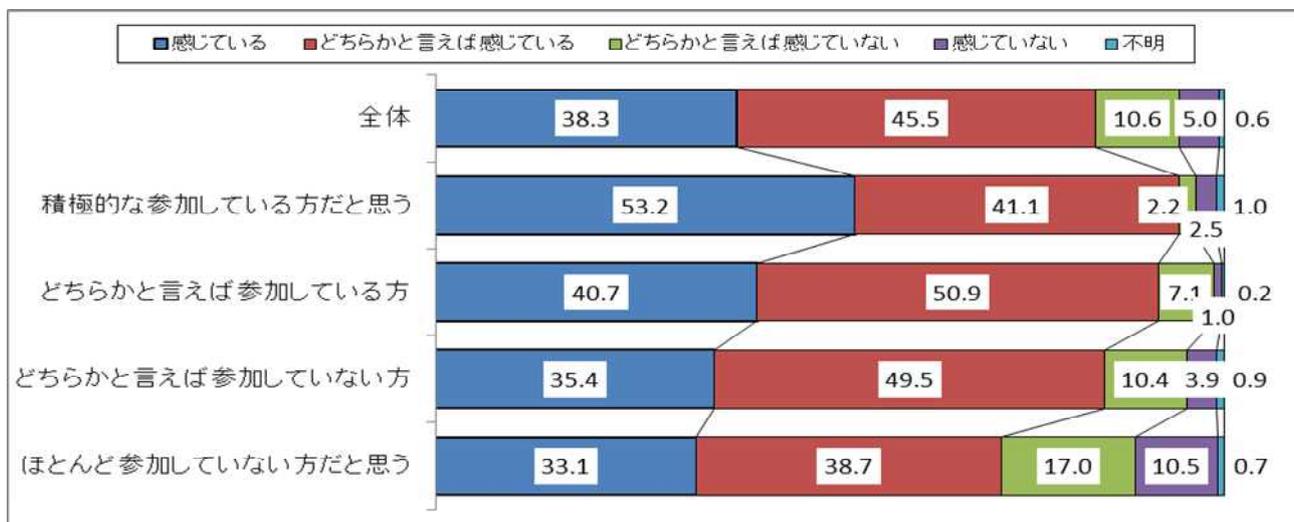
図 6-4-6 問 1-17 友人・知人の多さ × 問 1-4 「幸せ」感



### (16) イベントや催し物、会合等への参加と「幸せ」感

各種のイベントや催し物に参加しているかどうかと「幸せ」感との関連を見ると、「積極的に参加している方だと思ふ」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、53.2%となっている。そして「どちらかと言えば参加している」(40.7%)、「どちらかと言えば参加していない」(35.4%)、「ほとんど参加していない」(33.1%)と続く。

図 6-4-7 問 1-18 イベントや催し物、会合等への参加 × 問 1-4 「幸せ」感

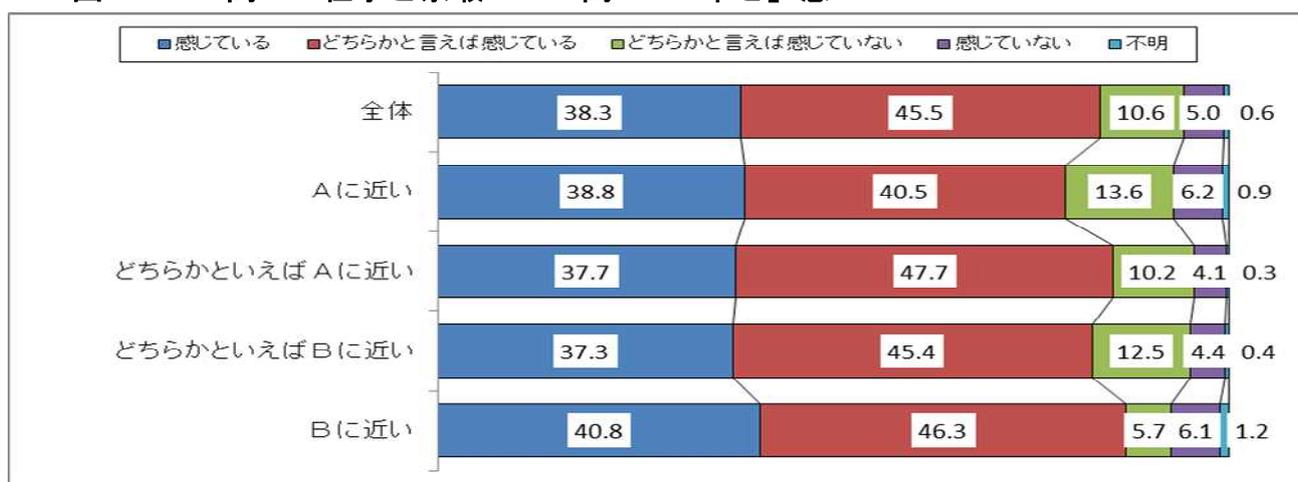


#### 4. 生活価値観の選択と「幸せ」感（問6×問1-4）

##### (1) “仕事と余暇”と「幸せ」感

A「いつでも仕事を優先させる」と考える人とB「休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない」と考える人との考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連しているかを見ると、余暇優先派の「幸せ」感が最も高くなっているが、どちらの考えであっても「幸せ」感に大きな差はない。

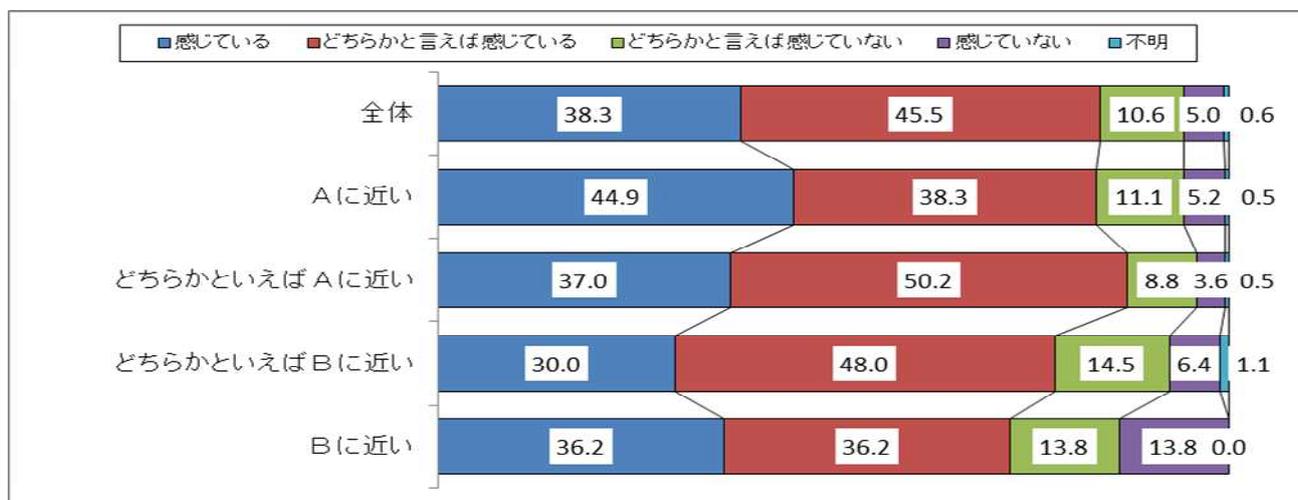
図6-5-1 問6-1仕事と余暇 × 問1-4「幸せ」感



##### (2) “精神的豊かさと物質的豊かさ”と「幸せ」感

A「精神的な豊かさが大切」と考えるかB「物質的な豊かさが大切」と考えるかの考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連しているのかを見ると、「精神的豊かさ」を大切にしている人の方が「物質的豊かさ」を大切にしている人よりも「幸せ」と感じる傾向があるように見える。しかし、どちらの考えであっても「幸せ」感に大きな差はない。

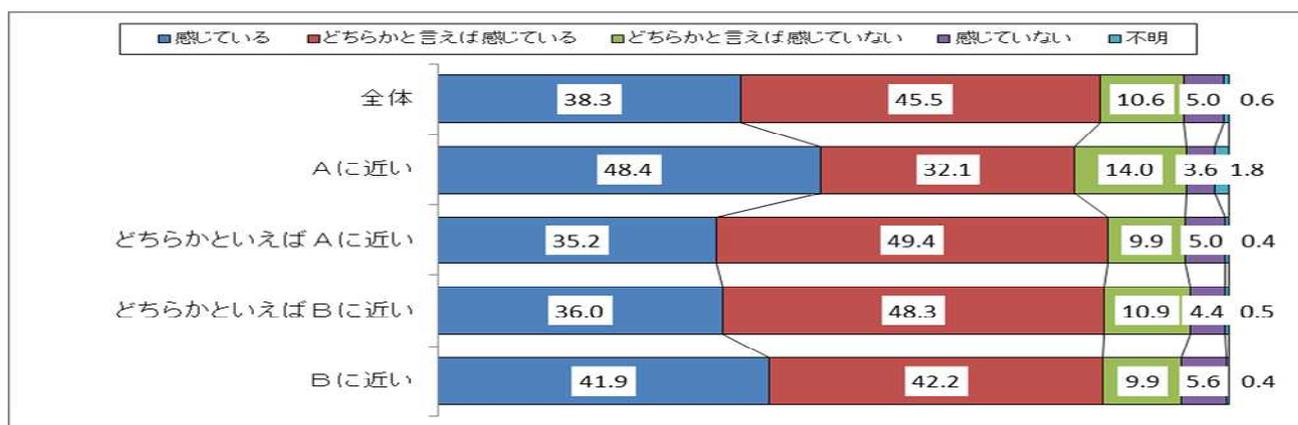
図6-5-2 問6-2精神的豊かさと物質的豊かさ × 問1-4「幸せ」感



### (3) “女性の社会進出と家事専念”と「幸せ」感

A「女性は家事・育児に専念すべき」と考えるかB「女性も外に出て働いた方がいい」と考えるかの考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、「女性は家事・育児に専念すべき」と考える人が「幸せ」を感じる比率と「女性も外に出てどんどん働いた方がいい」と考える人のそれとは、それぞれ「どちらかといえば」という中間的な考えの人の比率よりも高い傾向が見られる。AかBかによる「幸せ」感との相関はないと考えられる。

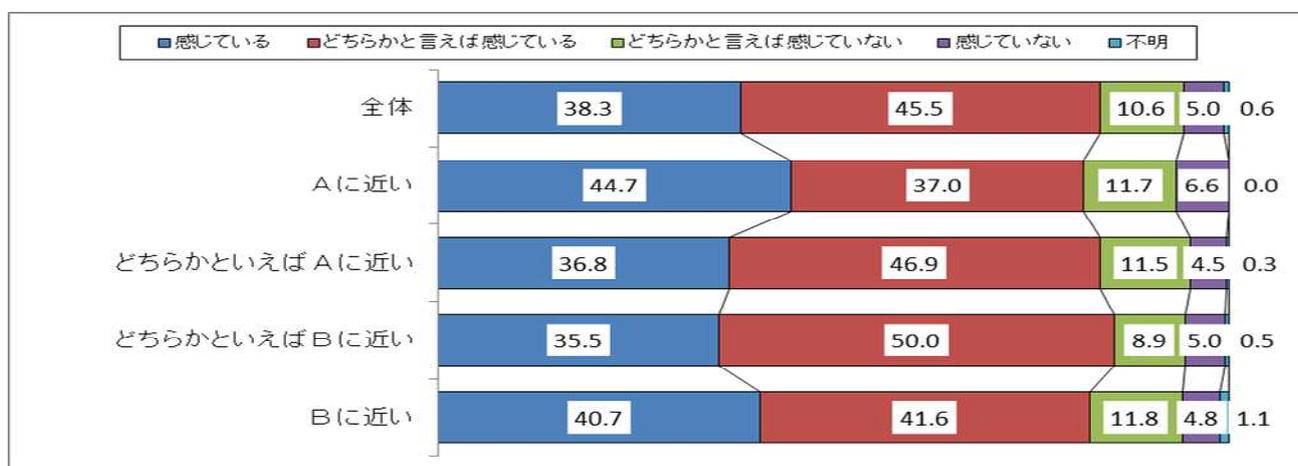
図 6-5-3 問 6-3 女性の社会進出と家事専念 × 問 1-4 「幸せ」感



### (4) “男性の家事専念と社会活動”と「幸せ」感

A「男性が家において家事や育児に専念してもいい」と考えるかB「外で働いて、社会的責任を果たすべき」と考えるかの考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、A「男性が家において家事や育児に専念してもいい」と考える人が「幸せ」と感じる比率が最も高い。また、B「男性は外で働いて、社会的責任を果たすべきである」という考えの人が「幸せ」と感じる比率がそれに次いでいる。AかBかによる「幸せ」感との相関はないと考えられる。

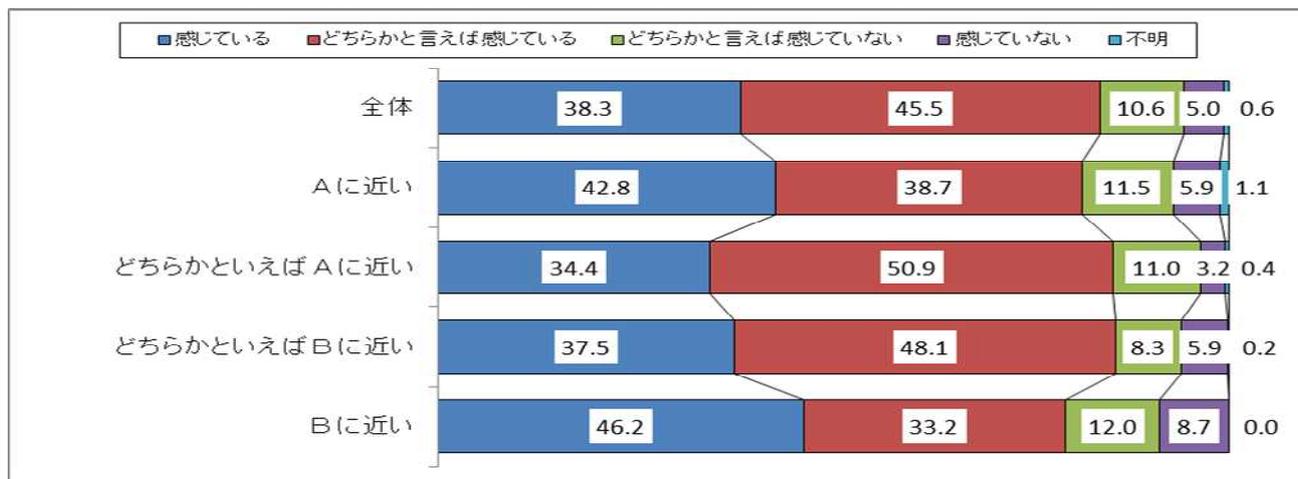
図 6-5-4 問 6-4 男性の家事専念と社会活動 × 問 1-4 「幸せ」感



(5) “能力・実績主義と年功序列主義”と「幸せ」感

A「年齢や勤務年数にかかわらず、能力と実績を重視して賃金と地位が決められることが望ましい」と考えるかB「年齢や勤務年数に応じて、賃金や地位を決める年功序列を大切にしたい方がよい」と考えるかの考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、年功序列を重視する考えの人が「幸せ」を感じる比率が最も高いが、能力や実績を重視する考えの人が「幸せ」を感じる比率も高い。しかし、単純集計結果で見て、7割強（どちらかといえばを含む）が能力・実績を重視していることを考慮すれば、AかBかによる「幸せ」感との相関はないと考えられる。

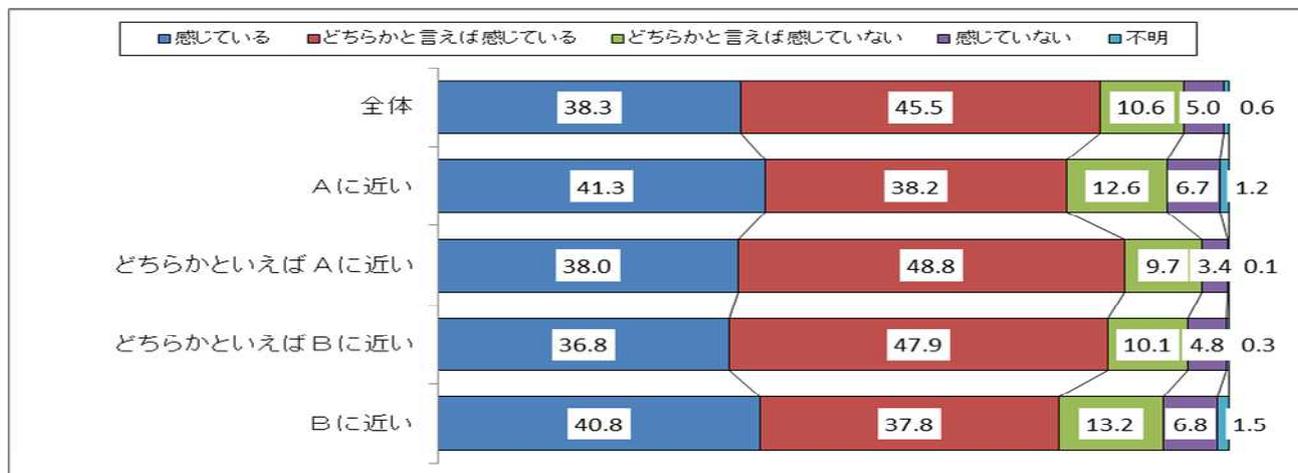
図 6-5-5 問 6-5 能力・実績主義と年功序列主義 × 問 1-4 「幸せ」感



(6) “都心での生活と郊外での生活”と「幸せ」感

A「多少土地が高価でも利便性のよい都心（街の中）で暮らす方がいい」と考える人とB「多少不便でも、土地の安価な郊外で暮らす方がいい」と考える人の考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、2つの考えと「幸せ」感の比率には、差異はないと言える。

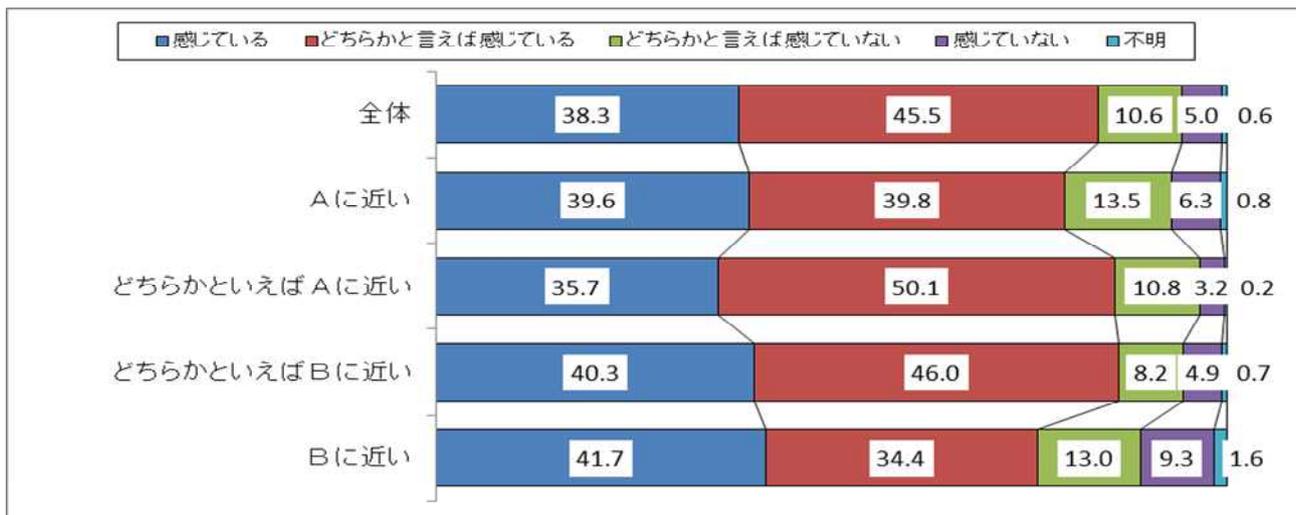
図 6-5-6 問 6-6 都心での生活と郊外での生活 × 問 1-4 「幸せ」感



(7) “改革と保守” と「幸せ」感

A「新しいものは大いに取り入れて改革して欲しい」と考える人とB「いたずらに改革するより古いものの価値を大切にするのがよい」と考える人の考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、2つの考えと「幸せ」感の比率には、差異はないと言える。

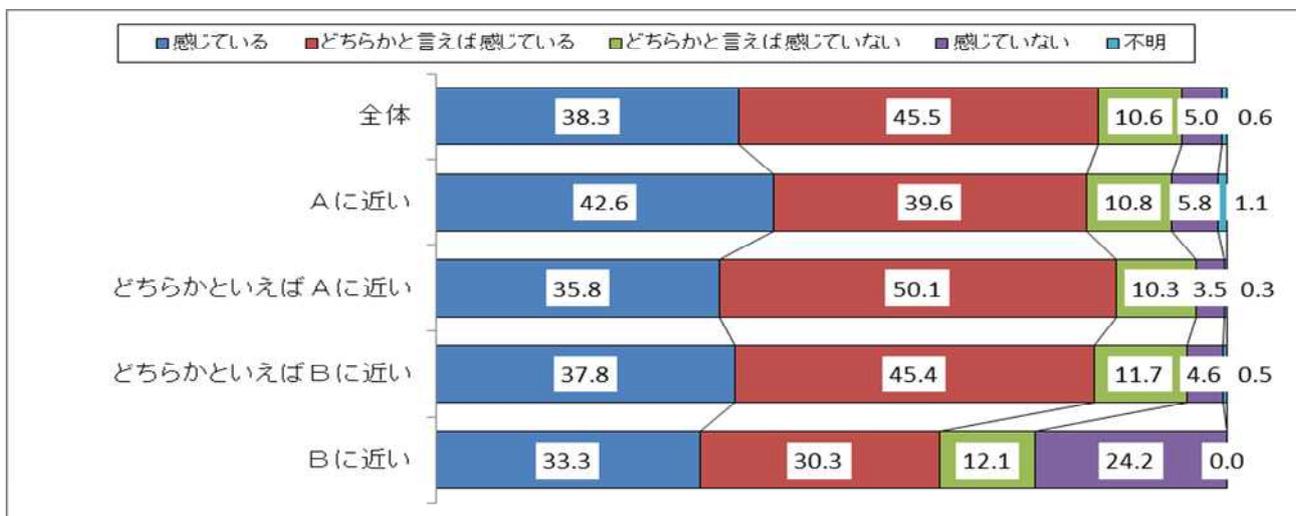
図 6-5-7 問 6-7 改革と保守 × 問 1-4 「幸せ」感



(8) “地方分権と中央集権” と「幸せ」感

A「地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移した方がいい」と考える人とB「政府が権限の多くを管理している方がいい」と考える人の考え方の違いが「幸せ」感とどのように関連するかを見ると、「地方分権を進めた方がいい」と考える人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、「中央集権的な方がいい」と考える人の「幸せ」感が最も低い。AかBかの考えと「幸せ」感には一定の相関があると思われる。

図 6-5-8 問 6-8 地方分権と中央集権 × 問 1-4 「幸せ」感

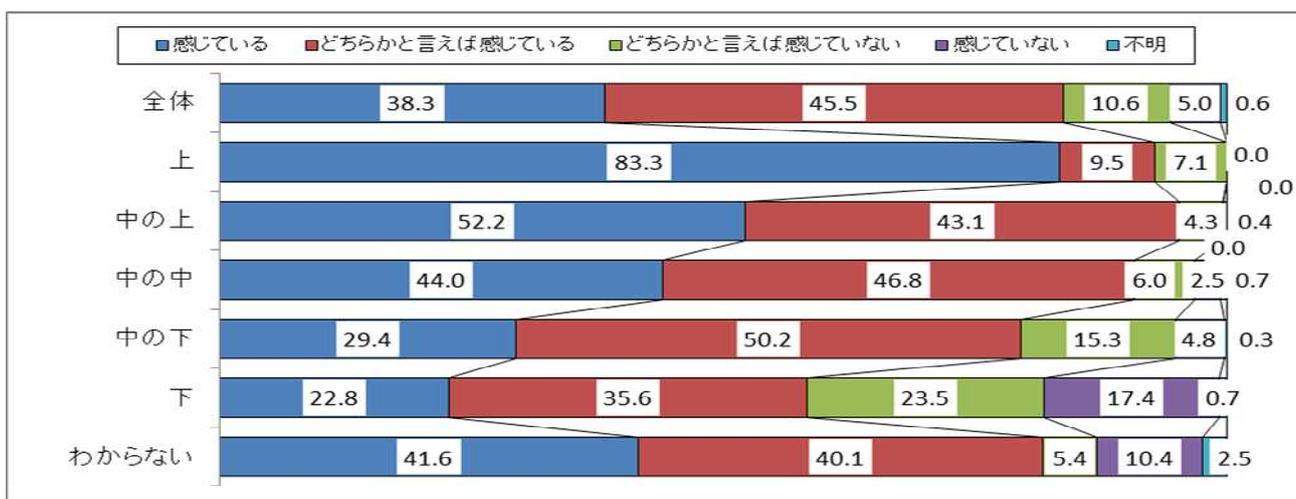


## 5. 生活状態（くらしむき）と「幸せ」感（問9×問1-4）

### (1) 生活状態の意識と「幸せ」感

家族の生活状態と「幸せ」感との関連を見ると、生活状態がよそに比べて「上」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、83.3%となっている。一方、「幸せ」を感じる比率が最も低いのは、生活状態がよそに比べて「下」と回答した人で22.8%となっている。生活状態の意識と「幸せ」感の間には、一定の相関があると考えられる。

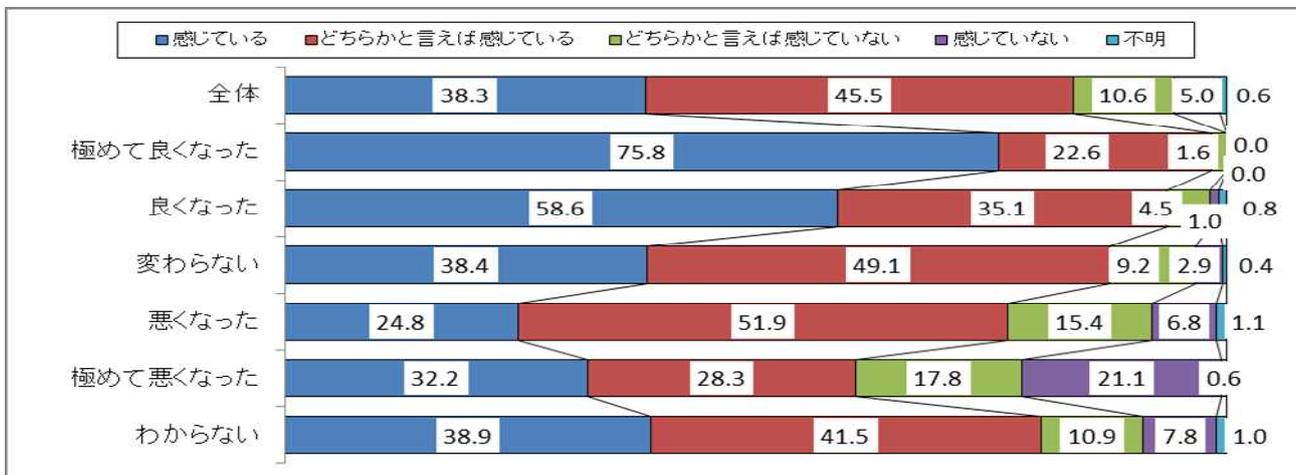
図 6-6-1 問 9-1 生活状態の意識 × 問 1-4 「幸せ」感



### (2) 生活状態の変化と「幸せ」感

生活状態が4、5年間前に比べて向上したと感じているかどうかと「幸せ」感の関連を見ると、「極めてよくなった」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、75.8%となっている。そして「良くなった」(58.6%)、「わからない」(38.9%)、「変わらない」(38.4%)、「極めて悪くなった」(32.2%)、「悪くなった」(24.8%)と続く。

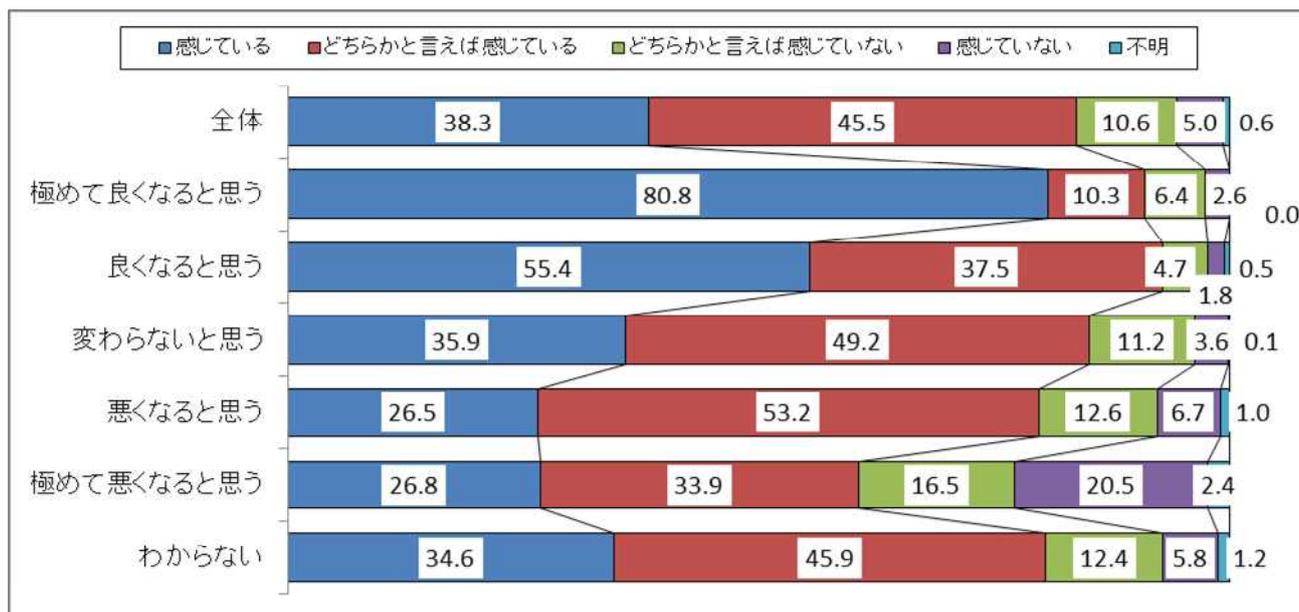
図 6-6-2 問 9-2 生活状態の変化 × 問 1-4 「幸せ」感



### (3) 生活状態の見通しと「幸せ」感

今後の生活が今の生活に比べて良くなると思うかどうかという見通しと、「幸せ」感との関連を見ると、「極めて良くなると思う」と回答した人が「幸せ」を感じる比率が最も高く、80.8%となっている。そして「良くなると思う」(55.4%)、「変わらないと思う」(35.9%)、「わからない」(34.6%)、「極めて悪くなると思う」(26.8%)、「悪くなると思う」(26.5%)と続く。生活状態の見通しと「幸せ」感の間に相関があるかどうかは、どちらともいえない。

図 6-6-3 問 9-3 生活状態の見通し × 問 1-4 「幸せ」感



## 6. 「幸せ」感に関する検定

本章の1から5において主な設問と「幸せ」感との関連について見てきたが、ここでは統計的手法を用いた計算の結果によりそれらを簡潔に補足する。

統計的手法として用いた「カイ2乗検定及び尤度比」並びに「ソマーズ (Somers) の  $d$ 」の概要については、「I 概要」中、「4. 留意事項と用語の解説」を参照されたい。

- (1) 県外居住経験の長さとは「幸せ」感  
県外に居住した経験の長さとは「幸せ」感の強さとは相関はないと言える。
- (2) 中流意識とは「幸せ」感  
中流意識とは「幸せ」感とは相関しており、生活水準に対する自覚が「幸せ」感を規定する。「中流」以上と思うほどより強く「幸せ」を感じる。
- (3) 人と人のつながりとは「幸せ」感  
「10年前の沖縄と比べて人と人のつながりが強まったと思う」とことと「幸せ」感とは相関はないと言える。
- (4) 20年先の沖縄に対する見通しとは「幸せ」感  
「20年先の沖縄が現在より発展し、輝いていると思う」とことと「幸せ」感とはそれほど強い相関はないと言える。
- (5) 努力すれば人生は変わるという考えとは「幸せ」感  
「努力すれば人生は変わる」という思いを持っている人ほどより強く「幸せ」を感じている。その相関は大きい。
- (6) 世帯の経済状況とは「幸せ」感  
「幸せ」を感じている人ほど、「世帯の経済状況に余裕がある」と思っている。
- (7) 仕事への満足感とは「幸せ」感  
「幸せ」を感じている人ほど、現在の仕事に満足している。
- (8) 家族との関係とは「幸せ」感  
「家族との関係が良い」と思っている人ほどより強く「幸せ」を感じている。その相関は大きい。

- (9) 健康状態と「幸せ」感  
健康状態が良いと思っている人ほどより強く「幸せ」を感じている。
- (10) 住まいが生活していく上で十分かどうかと「幸せ」感  
より強く「幸せ」を感じている人ほど「現在の住まいが生活していく上で十分だ」と思っている。
- (11) 生きがいと「幸せ」感  
「幸せ」感を感じている人ほど、生きがいにしていることを多く持っている。
- (12) 社会に対する満足感と「幸せ」感  
「幸せ」を感じている人ほど、現在の社会に満足している。
- (13) 県民間の経済格差と「幸せ」感  
「10年前と比べて県民間の経済格差が縮まった」と感じるかどうかは「幸せ」感とは相関はないと言える。
- (14) 沖縄県に誇りを感じる程度と「幸せ」感  
「沖縄県に誇りを感じている」人ほど、より強く「幸せ」を感じている。
- (15) 沖縄県に生まれて良かったとの思いと「幸せ」感  
「沖縄県に生まれ、生活できて良かった」と思っている人ほどより強く「幸せ」を感じている。
- (16) 米軍専用施設の集中と「幸せ」感  
「沖縄県に全国の米軍専用施設の約74%が存在していることについて差別的な状況だ」と思っていることと「幸せ」感とは相関関係がないと言える。
- (17) 友人・知人の多さと「幸せ」感  
より強く「幸せ」を感じている人ほど、友人・知人が多くいると思っている。
- (18) イベント・会合への参加と「幸せ」感  
イベントや会合への参加は「幸せ」を感じることは相関関係がそれほどない。
- (19) 生活状態の意識と「幸せ」感  
より強く「幸せ」を感じている人ほど「生活状態はより良い」と思っている。

(20) 4、5年前と比べた生活状態と「幸せ」感

より強く「幸せ」を感じている人ほど「4、5年前に比べて生活状態は良くなった」と思っている。

(21) 今後の生活と「幸せ」感

より強く「幸せ」を感じている人ほど「今後の生活は良くなるだろう」と思っている。しかし、この相関はそれほど強くない。

表 7-1-1 「幸せ」感に関する検定

Q 1 - 4 あなたは今「幸せ」だと感じていますか

1. 感じている
2. どちらかと言えば感じている
3. どちらかと言えば感じていない
4. 感じていない

質問項目	関連する度数 (クロスする変数)	カイ 2 乗検定			傾向性による類似度			判定
		Peasonのカイ 2 乗 (上段) 尤度比 (下段)			Somersの d (値)			
		値	自由度	漸近有意確率(両側)	対称	Q1-4従属変数	従属変数	
FS8	県外居住経験	40.004 39.964	12 12	.000 .000	.025	.026	.025	×
FS11	中流意識	213.945 219.043	6 6	.000 .000	.229	.252	.211	○
Q1-1	人と人のつながり	63.217 72.115	9 9	.000 .000	.067	.064	.069	×
Q1-2	20年先の沖縄	165.662 165.673	9 9	.000 .000	.137	.126	.149	△
Q1-3	努力すれば	824.795 611.656	9 9	.000 .000	.356	.369	.344	◎
Q1-6	世帯の経済状況	337.756 280.733	12 12	.000 .000	.224	.218	.231	○
Q1-7	仕事への満足度	319.689 268.263	9 9	.000 .000	.292	.278	.308	○
Q1-8	家族との関係	859.238 652.471	9 9	.000 .000	.392	.411	.375	◎
Q1-9	健康状態	443.908 366.628	9 9	.000 .000	.288	.302	.275	○
Q1-10	住まい	468.844 343.607	9 9	.000 .000	.252	.242	.263	○
Q1-11	生きがい	1014.639 836.968	12 12	.000 .000	.422	.401	.446	◎
Q1-12	社会に対する満足度	275.437 277.229	12 12	.000 .000	.194	.182	.207	○
Q1-13	県民間の経済格差	26.566 29.748	9 9	.002 .000	.019	.018	.020	×
Q1-14	沖縄県に誇り	482.406 362.524	9 9	.000 .000	.266	.274	.259	○
Q1-15	沖縄県に生まれて	627.429 496.620	12 12	.000 .000	.328	.331	.325	◎
Q1-16	米軍施設	73.310 70.962	12 12	.000 .000	.077	.074	.079	×
Q1-17	友人・知人	277.945 251.698	9 9	.000 .000	.212	.198	.228	○
Q1-18	イベント・会合への参加	206.879 212.713	9 9	.000 .000	.165	.154	.177	△
Q9-1	生活状態の意識	342.031 320.141	15 15	.000 .000	.205	.194	.218	○
Q9-2	4、5年前にくらべ	318.986 287.667	15 15	.000 .000	.208	.199	.219	○
Q9-3	今後の生活	264.978 244.141	15 15	.000 .000	.177	.163	.195	△

◎強い有意な相関あり  
△弱い有意な相関あり

○有意な相関あり  
×有意な相関なし

## 7. 県民の自己像と「社会に対する満足」感（問 1-12）

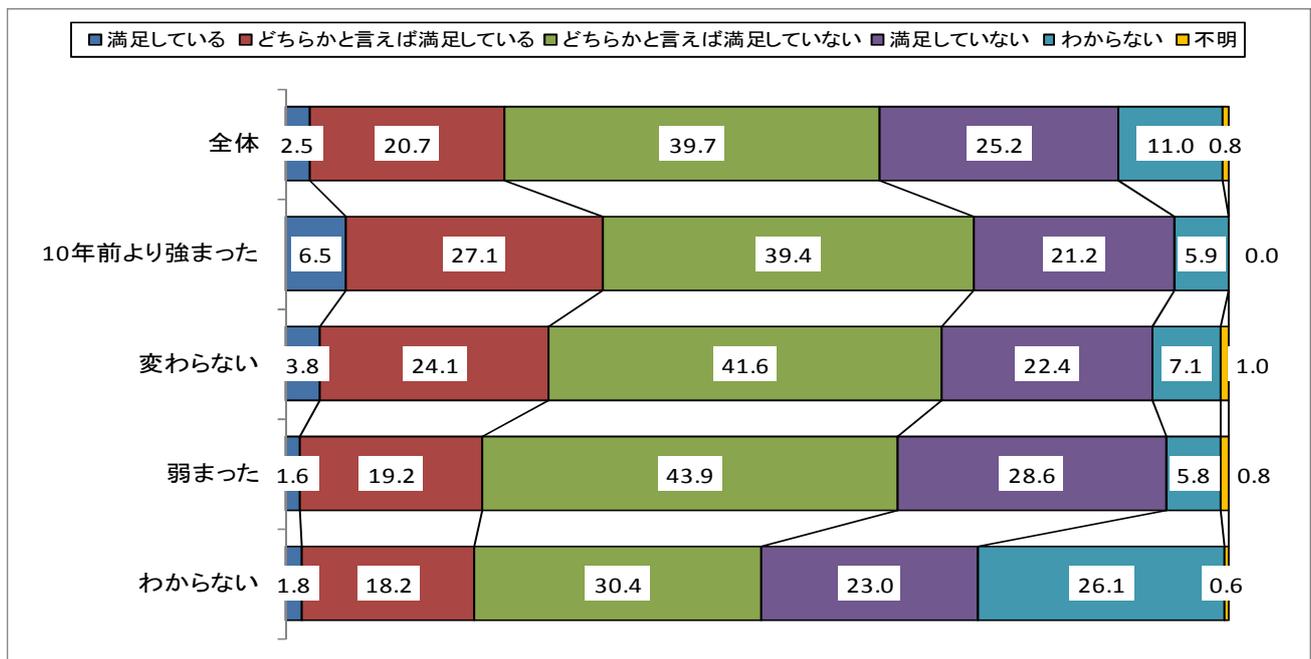
問 1 の (12) 「あなたは、現在の社会に全体として満足していますか」という設問に対して、「満足している」が 2.5%、「どちらかといえば満足している」が 20.7%、「どちらかといえば満足していない」が 39.7%、「満足していない」が 25.2%、そして、「わからない」が 11.0%であった。64.9%の人が社会に対して満足していない状況といえる。

ここでは、これら「社会に対する満足」感と沖縄県民の自己像との関連を見ていく。

### (1) 人と人のつながりと「社会に対する満足」感

10 年前の沖縄に比べて、人と人のつながりが強まったと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「10 年前より強まった」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかといえば満足している」の比率の合計は 33.6%となっている。そして「変わらない」(27.9%)、「弱まった」(20.8%)、「わからない」(20.0%) と続く。人と人のつながりと「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

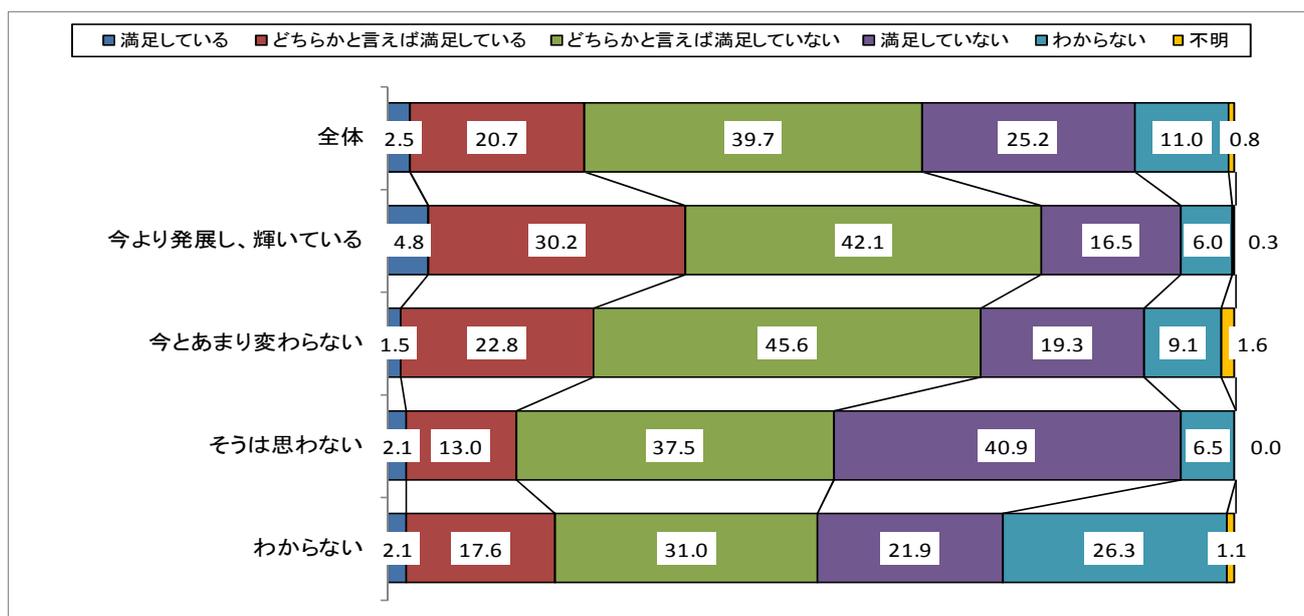
図 7-2-1 問 1-1 人と人のつながり × 問 1-12 「社会に対する満足」感



## (2) 20年先の沖縄に対する見通しと「社会に対する満足」感

20年先の沖縄は現在よりも発展し、輝いていると思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「そう思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は35.0%となっている。そして「今とあまり変わらない」(24.3%)、「わからない」(19.7%)、「そうは思わない」(15.1%)と続く。「社会に対する満足」感が高い人ほど将来に期待していることが分かる。

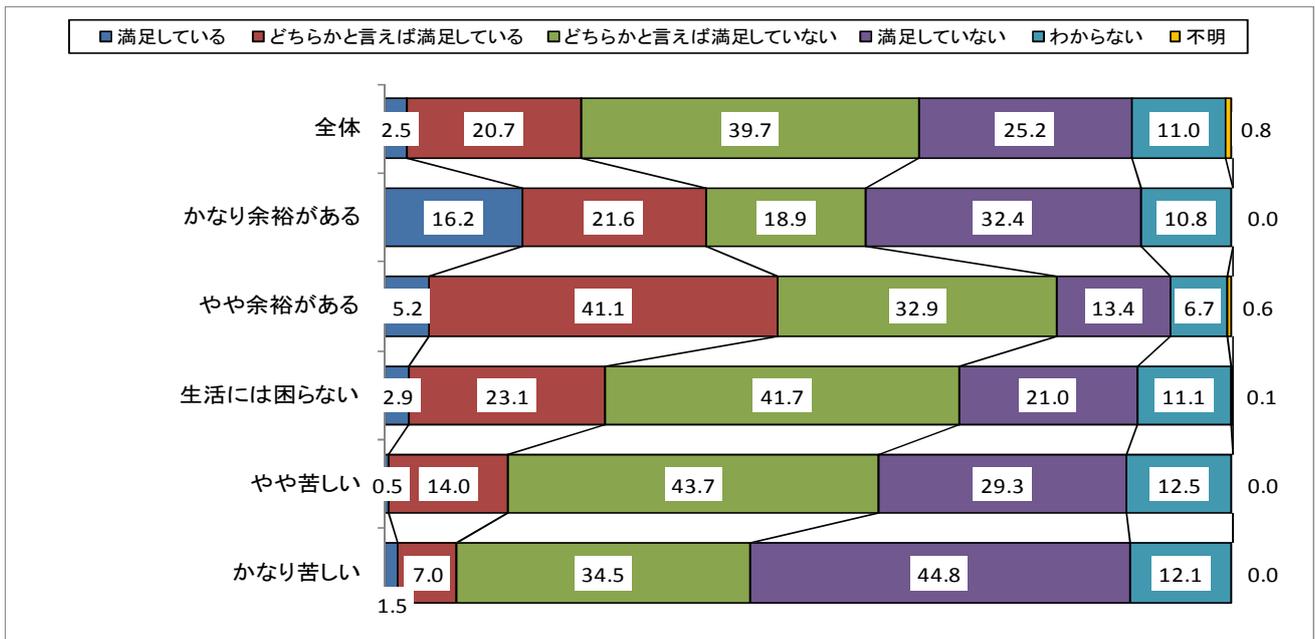
図 7-2-2 問 1-2 20年先の沖縄に対する見通し × 問 1-12 「社会に対する満足」感



## (3) 世帯の経済状況と「社会に対する満足」感

世帯の経済状況に余裕があるかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「やや余裕がある」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は46.3%となっている。そして「かなり余裕がある」(37.8%)、「生活には困らない」(26.0%)、「やや苦しい」(14.5%)、「かなり苦しい」(8.5%)と続く。世帯の経済状況と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

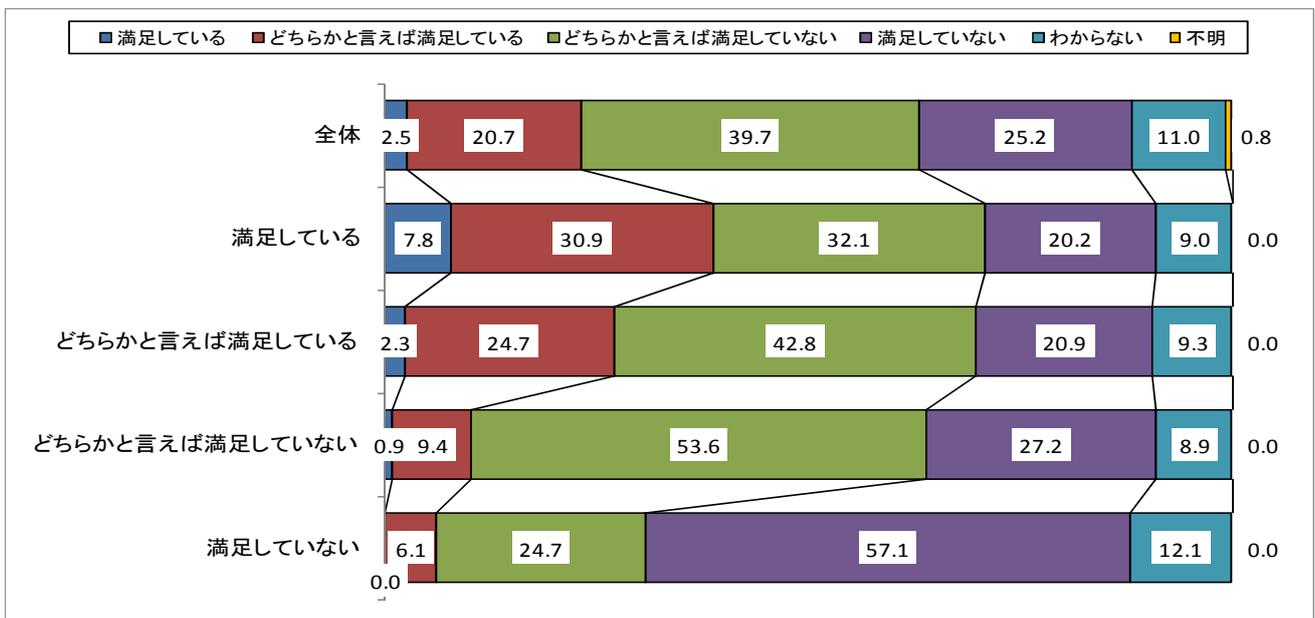
図 7-2-3 問 1-6 世帯の経済状況 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



(4) 仕事に対する満足感と「社会に対する満足」感

現在の仕事に満足しているかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「満足している」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は 38.7%となっている。そして「どちらかと言えば満足している」(27.0%)、「どちらかと言えば満足していない」(10.3%)、「満足していない」(6.1%)と続く。仕事に対する満足感と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

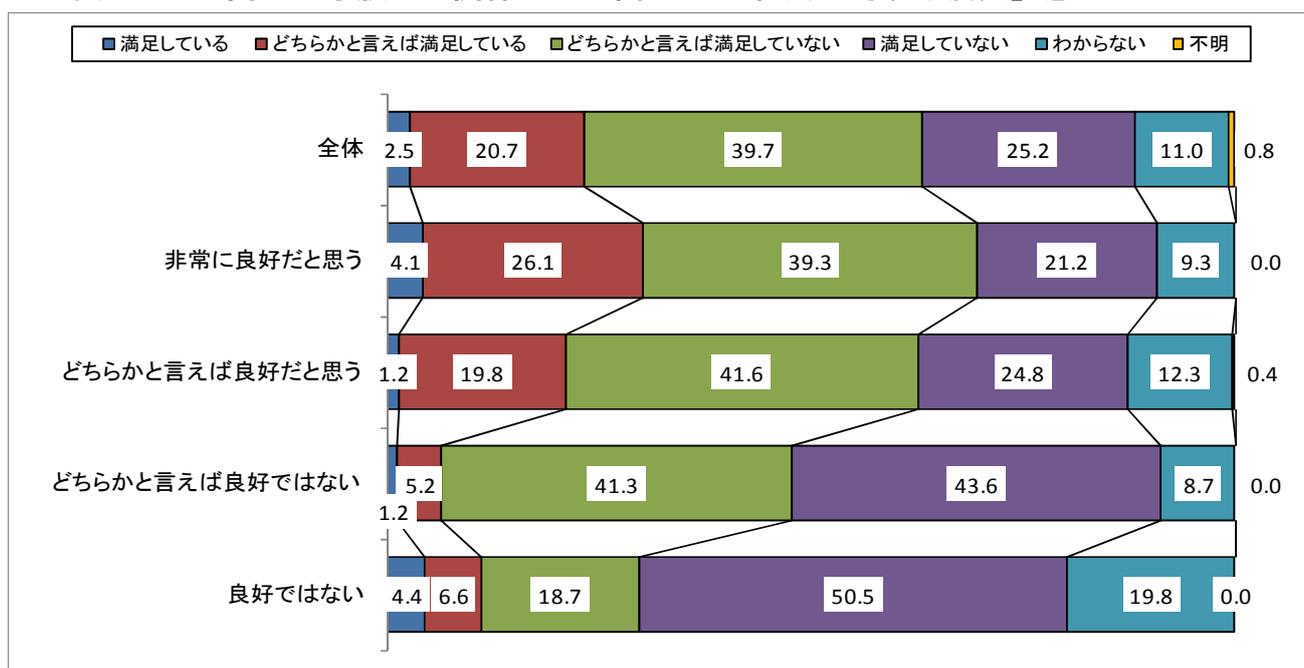
図 7-2-4 問 1-7 仕事に対する満足感 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



### (5) 家族との関係と「社会に対する満足」感

家族との関係が良好だと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「非常に良好だと思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は 30.2%となっている。そして「どちらかと言えば良好だと思う」(21.0%)、「良好ではない」(11.0%)、「どちらかと言えば良好ではない」(6.4%)と続く。家族との関係と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

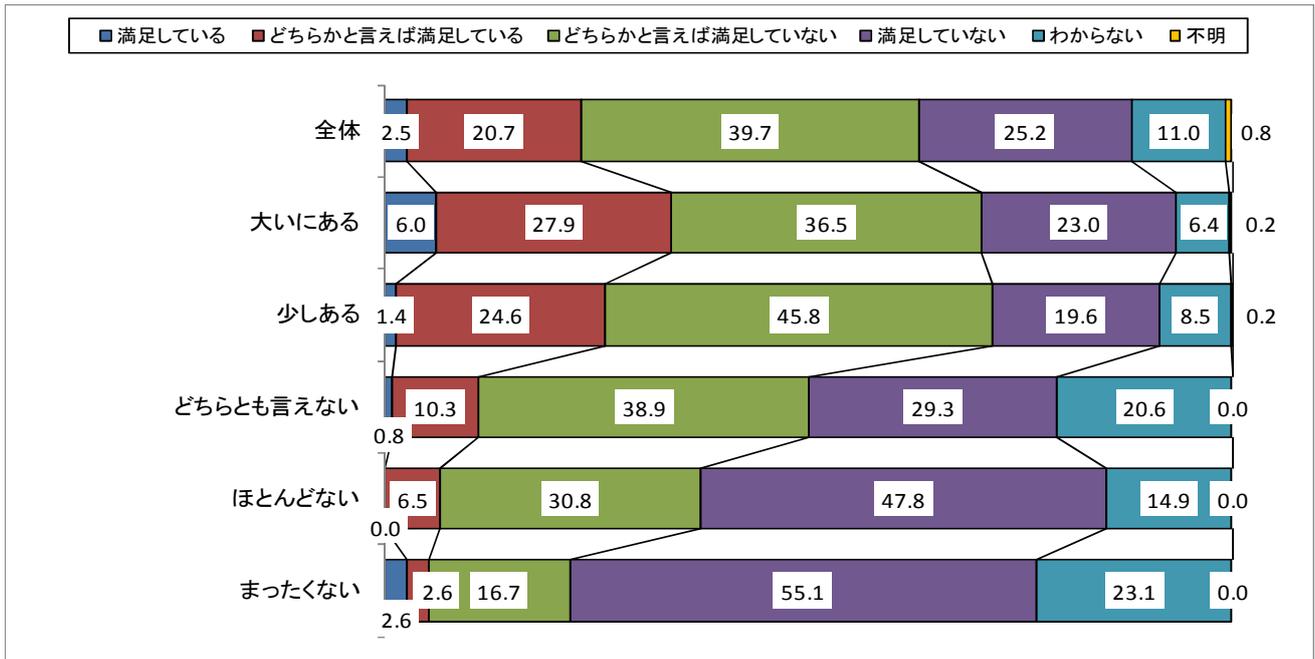
図 7-2-5 問 1-8 家族との関係 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



### (6) 「生きがい」と「社会に対する満足」感

いきがいにしていることがあるかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「大いにある」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は 33.9%となっている。そして「少しある」(26.0%)、「どちらとも言えない」(11.1%)、「ほとんどない」(6.5%)、「まったくない」(5.2%)と続く。いきがいにしていることがあるかどうかと「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

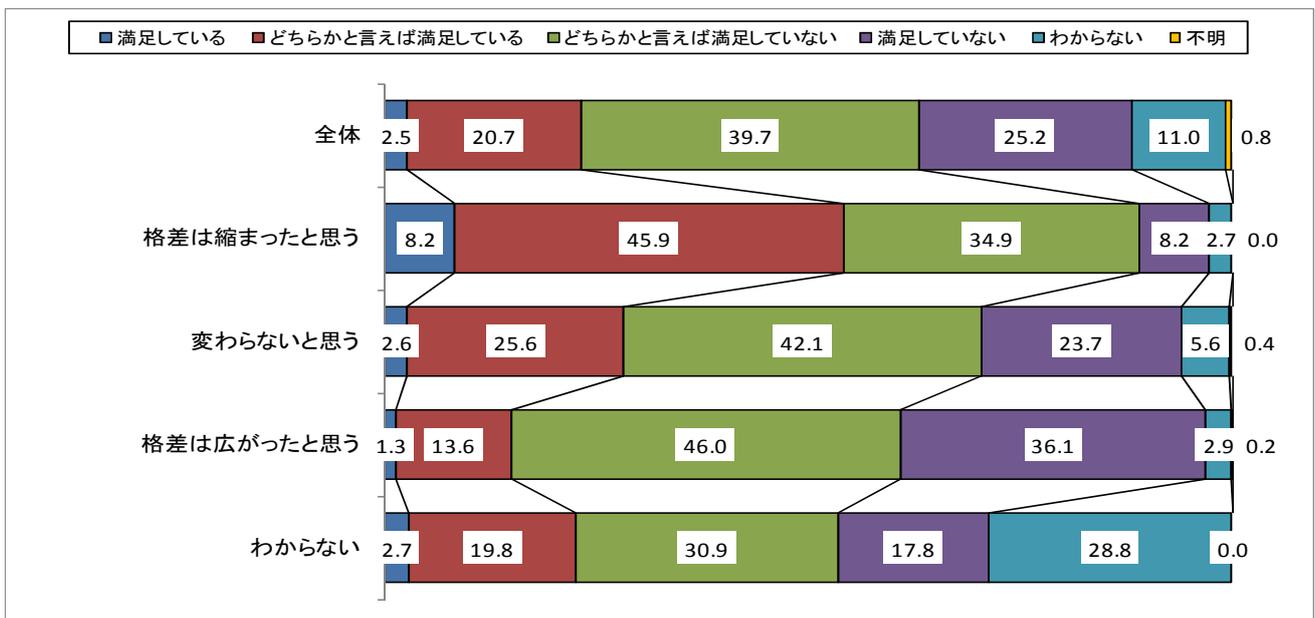
図 7-2-6 問 1-11 「生きがい」 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



(7) 県民間の経済格差と「社会に対する満足」感

10年前の沖縄に比べて、県民間の経済格差は縮まったと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「格差は縮まったと思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は54.1%となっている。そして「変わらないと思う」(28.2%)、「わからない」(22.5%)、「格差は広がったと思う」(14.9%)と続く。県民間の経済格差と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

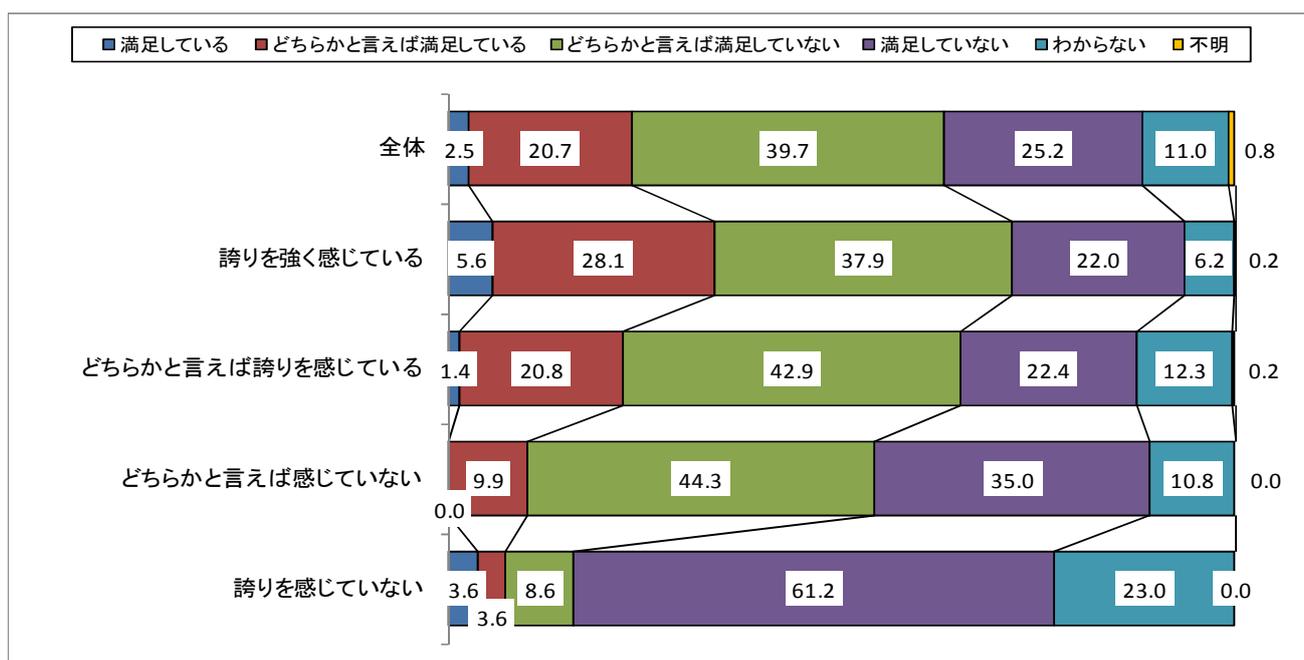
図 7-2-7 問 1-13 県民間の経済格差 × 問 1-12 「社会に対する満足」感



### (8) 沖縄県に対する誇りと「社会に対する満足」感

沖縄県に誇りを感じるかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「誇りを強く感じている」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は33.7%となっている。そして「どちらかと言えば誇りを感じている」(22.2%)、「どちらかと言えば感じていない」(9.9%)、「誇りを感じていない」(7.2%)と続く。沖縄県に対する誇りの有無と「社会に対する満足」感に一定の相関があることが考えられる。

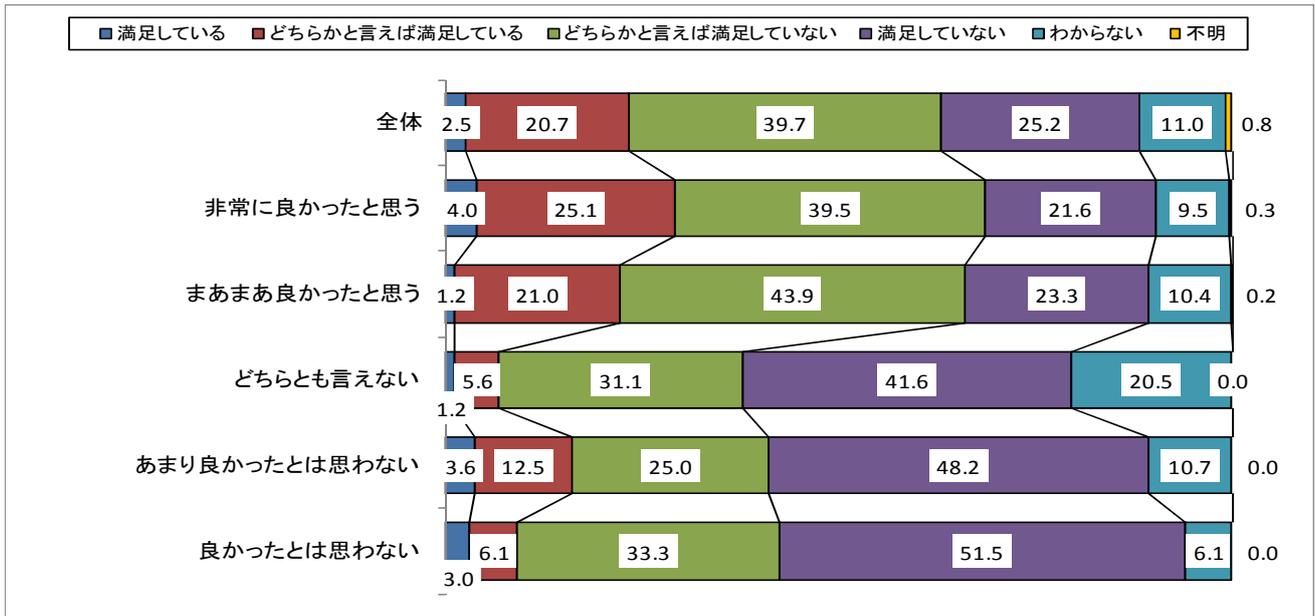
図 7-2-8 問 1-14 沖縄県に対する誇り × 問 1-12 「社会に対する満足」感



### (9) 「沖縄県に生まれて良かった」との思いと「社会に対する満足」感

沖縄県に生まれ、あるいは生活できて良かったと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「非常に良かったと思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は29.1%となっている。そして「まあまあ良かったと思う」(22.2%)、「あまり良かったとは思わない」(16.1%)、「良かったとは思わない」(9.1%)、「どちらとも言えない」(6.8%)と続く。沖縄県に生まれて良かったとの思いと「社会に対する満足」感に相関があるかどうかは、どちらとも言えない。

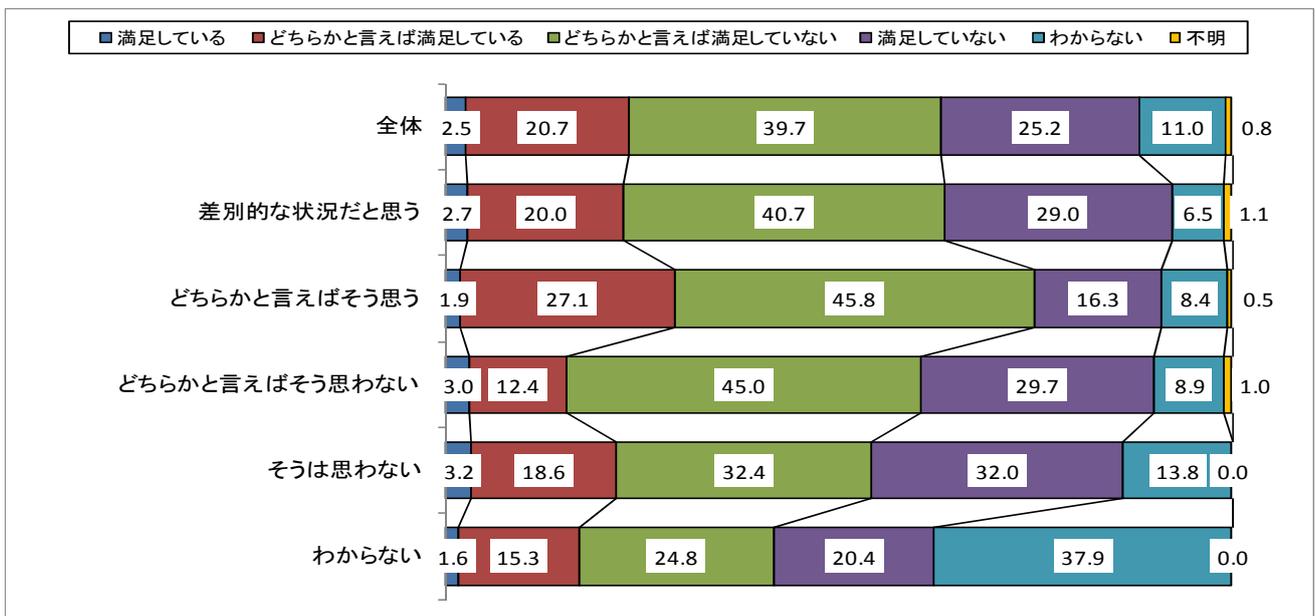
図 7-2-9 問 1-15「沖縄に生まれて良かった」 × 問 1-12「社会に対する満足」感



(10) 米軍専用施設の集中に対する意識と「社会に対する満足」感

沖縄県に全国の米軍専用施設の約 74%が存在していることについて、差別的な状況だと思うかどうかと「社会に対する満足」感との関連を見ると、「どちらかと言えばそう思う」と回答した人が、「社会に対する満足」感を感じる比率が高く、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の比率の合計は 29.0%となっている。そして「差別的な状況だと思う」(22.7%)、「そうは思わない」(21.8%)、「わからない」(16.9%)、「どちらかと言えばそうは思わない」(15.4)と続く。米軍専用施設の集中に対する意識と「社会に対する満足」感には、相互の関連はないように思われる。

図 7-2-10 問 1-16 米軍専用施設の集中に対する意識 × 問 1-12「社会に対する満足」感



## 8. 「社会に対する満足」感に関する検定

本章の7において主な設問と「幸せ」感との関連について見てきたが、ここでは統計的手法を用いた計算の結果によりそれらを簡潔に補足する。

統計的手法として用いた「カイ2乗検定及び尤度比」並びに「ソマーズ (Somers) の  $d$ 」の概要については、「I 概要」中、「4. 留意事項と用語の解説」を参照されたい。

### (1) 人と人のつながりと「社会に対する満足」感

「10年前の沖縄に比べて、人と人のつながりが強まった」と思う人ほど「社会に対する満足」感はどちらかと言えば高いと言える。しかし、その相関はそれほど強くはない。

### (2) 20年先の沖縄に対する見通しと「社会に対する満足」感

「社会に対する満足」感が高い人ほど「20年先の沖縄は現在より発展し、輝いている」と思っている。

### (3) 世帯の経済状況と「社会に対する満足」感

「世帯の経済状況に余裕がある」と思っている人ほど「社会に対する満足」感が高い。

### (4) 仕事への満足感と「社会に対する満足」感

現在の仕事に満足している人ほど「社会に対する満足」感が高い。

### (5) 家族との関係と「社会に対する満足」感

「家族との関係が良好だ」と思う人ほど「社会に対する満足」感はどちらかと言えば高いと言える。しかし、その相関はそれほど強くはない。

### (6) 生きがいと「社会に対する満足」感

生きがいにしていることがある人ほど「社会に対する満足」感が高い。

### (7) 県民間の経済格差と「社会に対する満足」感

「10年前と比べて県民間の経済格差が縮まった」と思っている人ほど「社会に対する満足」感が高い。

### (8) 沖縄県を誇りに感じる程度と「社会に対する満足」感

沖縄県に誇りを感じている人ほど「社会に対する満足」感が高い。

(9) 沖縄県に生まれて良かったとの思いと「社会に対する満足」感

「沖縄県に生まれて、あるいは生活できて良かった」と思っている人ほど「社会に対する満足」感はどちらかと言えば高いと言える。しかし、その相関はそれほど強くはない。

(10) 米軍専用施設の集中と「社会に対する満足」感

「沖縄県に全国の米軍専用施設の約74%が集中していることについて差別的な状況だ」と思っていることと「社会に対する満足」感とは有意な相関はないと考えられる。

表 7-2-1 「社会に対する満足度」に関する検定

Q1-12あなた、現在の社会に全体として満足していますか

1. 満足している
2. どちらかと言えば満足している
3. どちらかと言えば満足していない
4. 満足していない
5. わからない

質問項目	関連する度数 (クロスする変数)	カイ2乗検定			傾向性による類似度			判定
		Pearsonのカイ2乗 (上段) 尤度比 (下段)			Somersのd (値)			
		値	自由度	漸近有意確率(両側)	対称	Q1-12従属変数	従属変数	
Q1-1	人と人のつながり	258.129 223.998	12 12	.000 .000	.151	.155	.146	△
Q1-2	20年先の沖縄	365.284 326.410	12 12	.000 .000	.201	.198	.205	○
Q1-6	世帯の経済状況	291.107 275.293	16 16	.000 .000	.209	.217	.202	○
Q1-7	仕事への満足度	243.011 234.239	12 12	.000 .000	.213	.218	.208	○
Q1-8	家族との関係	146.729 150.672	12 12	.000 .000	.143	.161	.129	△
Q1-11	生きがい	355.530 354.139	16 16	.000 .000	.232	.236	.229	○
Q1-13	県民間の経済格差	550.386 503.971	12 12	.000 .000	.193	.196	.190	○
Q1-14	沖縄県に誇り	278.965 288.537	12 12	.000 .000	.193	.213	.177	○
Q1-15	沖縄県に生まれて	190.150 193.996	16 16	.000 .000	.161	.174	.150	△
Q1-16	米軍施設	337.419 270.036	16 16	.000 .000	.089	.092	.086	×

◎強い有意な相関あり  
△弱い有意な相関あり

○有意な相関あり  
×有意な相関なし